NPO法人 ふるさと未来創造堂

26日 4月 2018

【教職員研修】新発田市防災キャンプ事前研修会について

昨年に引き続き、新発田市防災キャンプ事前研修会を実施しました。
日にち　平成30年4月25日（水）、26日（木）一泊二日
場所　　新発田市「あかたにの家」

新発田市では、昨年から市内全小学校で防災キャンプを行っています。

昨年は初年度ということもあり、防災教育についての講義を行い、その後その講義を担当していただいた専門家や他の市町村の先生と一緒にグループを作り、プログラム相談を行いました。
防災キャンプ当日は、私たちふるさと未来創造堂や消防署、地域の方など外部の講師を活用し実施しました。

今年は、先生主体で昨年の活動を参考に防災キャンプを実施します。そのため、事前研修会では、実際に防災グッズ作りや防災レクリエーション、災害食作り等を体験していただいたり、川活動を行う場所に行き、実際の場所を確認しながら活動説明を行いました。
実際に体験し、活動の見通しを持っていただけたのではないかと思います。

研修会の流れです。
【研修１】施設見学

【研修2】講義　①新発田市の目指す防災教育について（新発田市教育委員会）
　②郷土愛と他者への思いやりを深める、防災教育の重要性
　（NPO法人ふるさと未来創造堂　事務局長　中野雅嗣）
　③防災教育が目指すべきところ～防災キャンプの可能性～
　（群馬大学大学院理工学府　准教授　金井昌信先生）

　　彡3】非常食体験（救給カレー）

【研修4】①と②を選択
　①川体験活動の実際と活動上の留意点
　（Love River Net　会長　樋口　勲氏）
　（NPO法人ふるさと未来創造堂　中野雅嗣）
　②プログラム相談
　（群馬大学大学院理工学府　准教授　金井昌信先生）
　（NPO法人ふるさと未来創造堂　中野明子）

【研修5】防災レクリエーションの実際と活動上の留意点
　（Love River Net　会長　樋口　勲氏）
　（NPO法人ふるさと未来創造堂　中野明子）

【研修6】シェアリング・まとめ（1日目のみの方はここで終了）

【研修7】サバイバルクッキングの体験（夕食）
　　パッククッキングで、ごはん・野菜スープ・ポテトスナックサラダ

【研修8】非常食体験（朝食）～みんなで分け合う体験～

【研修9】防災グッズ作りの実際と留意点

【研修10】プログラム相談

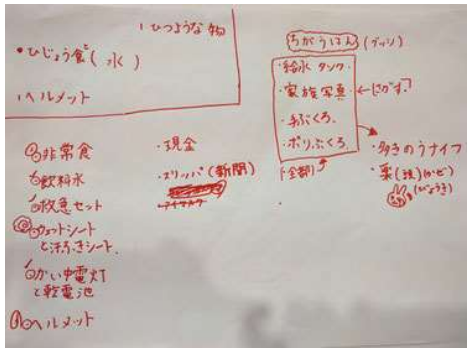
参加した先生方からは「実際にグッズ作りの体験をすることができてよかった。」「最初は、防災教育って重たいなと思っていたが、研修会にきて様々な体験活動を通して、一人ではできない、みんなで協力して行うからこそとても楽しい。協力することが楽しいと感じた。考えていたプログラムも変更したいと考えている。」「講義を聞いて、一方的ではダメ、体験するだけ、知識だけでなく、体験・話し合い・考え、行動することが大切だと思った。」など様々な声をいただきました。

新発田市教育委員会さんより、昨年防災キャンプの中で実際にこどもたちの変化を実感し、『こどもたちのため』に、この防災キャンプを継続していきたいという熱いお話がありました。
「道学共創の精神」「未来を切り開く力」を育む新発田の防災教育。
^ 〜ち防災教育をきっかけや題材に、「子どもの未来を切り拓く力」の育成をサポートしてい
　　ド。

NPO法人 ふるさと未来創造堂

18日 6月 2018

【新発田市防災キャンプ】新発田市立東豊小学校



今年も新発田市内全小学校のあかたにの家を活用した防災キャンプがはじまりました。

第1回目は、6月12日（火）新発田市立東豊小学校第4学年88名
です。

まずは、新発田消防署川東分所の方より、緊急地震速報について、地震からの身の守り方、応急手当（止血）の方法を学びました。

その後、自分たちにもできること・工夫することを体験。
グループで4コーナーをまわるレクリエーション形式で行いました。（水消火器体験、新聞紙スリッパ作り、毛布担架作り、ペットボトルランタン作り）
お昼に非常食の体験をした後は、避難所についての学習です。

中越地震での避難所の様子を伝え、水・電気・ガスが使えないと困る事がたくさんあることを知り、どんなものを準備したら良いか
グループで考えました。
グループ内でも必要なものが違うことに気付いた後は、「じゃあ家族の中でも、それぞれ必要なものが違うのではないか」と問いかけ、
家族の非常用持ち出し品を考えました。

「お父さんは喘息があるから呼吸器がいる。」「私は塗り薬が必要。」「妹におむつがいる」「お母さんは生理用品がいる」と
真剣に家族のことを考えながらワークシートに記入しました。
今日帰ったら、自分が考えた持ち出し品を伝え、家族みんなで相談して「わたしの家族の持ち出し品リスト」「家族で避難する場所」を決めておいてほしいことを伝え、終了しました。

「相談して決めることが大切だと思った。今日帰ったら話をしたい。」という声がありました。
1日盛りだくさんで、活動を行いましたが、笑顔で終了することができました。
ありがとうございました。

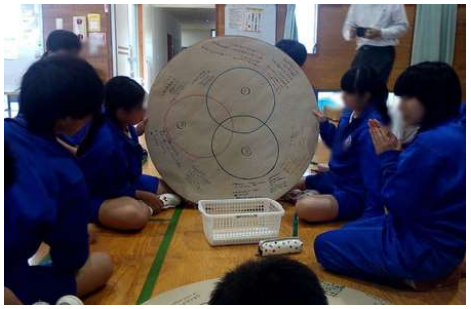
カテゴリ： 学校関係者, 備え, 地震, 活動紹介2018

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
つくする「防災教育」をきっかけに、
こい未来を創る

NPO法人 ふるさと未来創造堂

18日 6月 2018

【新潟市立臼井中学校】避難行動要支援者を支えるために中学生にできること



平成30年6月13日(水）新潟市立臼井中学校にて、全校防災教室を
行いました。

前日にデイサービスセンターにて、車いすの操作方法及び徒歩避難者の補助のしかたを体験しました。
その感想や気付きや誘導補助及び避難補助をするときに気を付けることを書き出し、共有するところからスタート。

（※写真「えんたくん」用紙を使用）

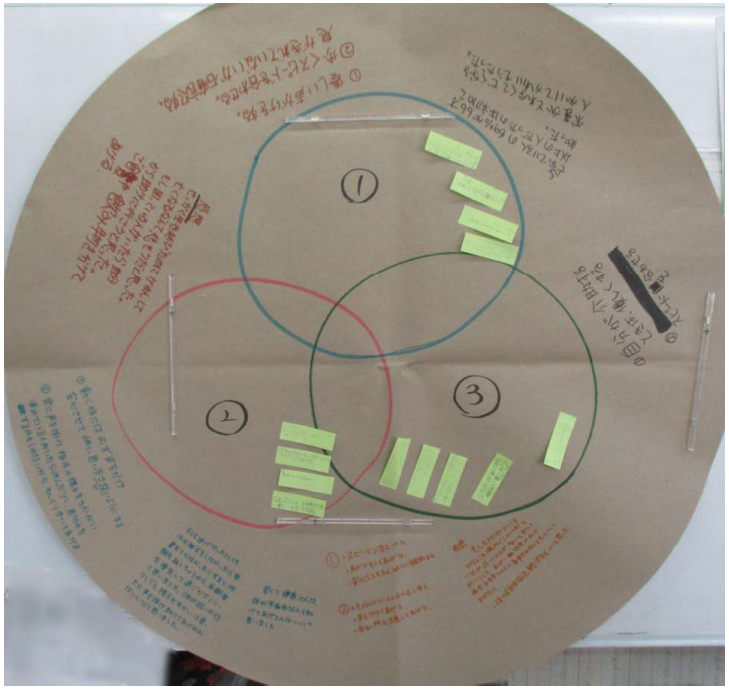
その後、写真資料を見ながら、中越地震や東日本大震災等を例に、地震によるまちの被害、身体が不自由な高齢者の災害時の課題について話をさせていただきました。

グループワーク「校内で清掃の時間に地震発生！ゆれているときは？（震度6強の地震発生中）」。
・屋外に避難完了。全員無事。安全かつ素早くデイサービスセンターの避難を手伝いに行くためには？
・デイサービスセンターの廊下で車いすの操作中または徒歩避難者の補助中に強いゆれの余震が起きたら？
◎災害時、施設の高齢者と自分が安全に避難をできるように、どのような準備や工夫が必要だろう？
それぞれ自分の意見を付箋に書きながら進めました。

南区総務課さんよりお話をいただいたり、充実した時間となりました。

「災害から生き延びた後に亡くなってしまうのはかなしい。」「相手に合わせて、声をかけながら行動する。」
「道具の準備も事前に確認しておく。」など様々な気付きがありました。

自分の身近にも災害時に支援が必要な人がいること、いざという時のために準備しておくことが大切なことに気付くことができました。



カテゴリ： 学校関係者, 避難所, 地震, 活動紹介2018

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
Mail: info@furusato-mirai.com

Copyright(c) 2016 特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂. All Rights

NPO法人 ふるさと未来創造堂

22日 6月 2018

【新潟市立青山小学校】町内こども会で避難所・避難経路を確認しよう

平成30年6月15日（金）
新潟市立青山小学校にて、全校児童・保護者の方々を対象に、「町内こども会で避難所・避難経路を確認しよう」をテーマに、防災講座を行いました。

まずは新潟地震で新潟市にきた津波の高さ（約4メートル）を実際に津波イメージグッズを使い、子どもたちに体感させました。

次に、青山小学校周辺の津波ハザードマップを紹介。実際にどのくらいの高さの津波が予想されているのか、確認しました。
地震のゆれがおさまった後、津波から命を守る行動について学習し、青山小学校作成「避難所・防災マップ」を活用し、町内こども会ごとに分かれ、避難所・避難経路を確認するワークショップを実施しました。

事前に、自宅に印を付けた「避難所・防災マップ」を参考に、自宅周辺地域で、さらに10名前後のグループを作っていただきました。子どもたち・保護者の方々が一緒になって輪を作り、まずは自己紹介を開始。日頃忙しい保護者の方々が、子どもたちや保護者の方々とお互い顔見知りになる貴重な機会です。最初は緊張していたグループも、子どもたちを中心に楽しく自己紹介することにより、グループ全体の表情が徐々に和らいでいきました。

その後、親子で避難所・避難経路について確認。その中で避難経路がなかなか分からず困っている下学年の親子がいましたが、上学年の親子が率先して避難経路を教えている姿があり、子どもも大人も関係なく、積極的に交流する姿がみられました。

災害時には、家族だけではなく、近隣住民との助け合いが不可欠です。日頃から、いざという時近隣住民と助け合い・支え合える関係性を築いていくことが防災では重要であると実感しま

した。

カテゴリ： 学校関係者, 避難所, 津波, 地震, 活動紹介2018

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
Mail: info@furusato-mirai.com

Copyright(c) 2016 特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂. All Rights

Cookie ポリシー

NPO法人 ふるさと未来創造堂

22日 6月 2018

【新潟市立結小学校】荻川地区学校・地域合同防災訓練

平成30年6月16日（土）
新潟市立結小学校「荻川地区学校・地域合同防災訓練」にて、結小学校へ避難してきた小学生や中学生、保護者の方々を対象に、避難訓練の講評、防災講話の担当をさせていただきました。

当日の流れは、家から地域の一次避難所へ避難し、人数把握や避難所名簿を作成。その後、一次避難所から区指定避難所へ避難。受付で避難所名簿を確認し、各教室や体育館に開設された避難場所へ地域ごとに移動し、そこでミニ集会を行いました。

地域ごとのミニ集会では、主に中学生が進行係となり、避難所で役に立つ防災グッズ「新聞紙スリッパ」の作り方を小学生や保護者の方々へ指導していました。前に出てただ説明するだけではなく、積極的に小さい子たちにも声かけをし、一緒にやさしく作り方を教えていました。その後、楽しい自己紹介ゲームを行い、地域ごとの交流の場として、大変盛り上がっていました。

ミニ集会後、放送室から各教室のTVモニターや体育館のスクリーンを通じ、避難訓練の講評と防災講話をさせていただきました。

実際に避難している様子について講評後、改めて結小学校周辺の写真をお見せし、実際にここで強い地震が起こったら、どのような危険があるのか、地域ごとに考えていただきました。ブロック塀や家の窓ガラスが危ないなど、多くの気付きがありました。
その後、訓練当日から54年前に発生した新潟地震の当時の様子を映像でお見せし、新潟県にも津波がきたことを確認。そして、「結小学校の周りには津波がくることがあるか」など、○×クイズを行いました。最後に、避難所について説明し、災害の時は、①自分の命は自分で守
難したら皆で助け合う③一人ひとりが自分にできることを考えて行動することを伝え、
ました。

初めての学校・地域合同防災訓練とのことでしたが、参加した全員の方が一生懸命に活動に取り組んでいらっしゃる様子がみられました。今後も継続した取組となるよう、ぜひ期待しています。

カテゴリ： 学校関係者, 避難所, 津波, 地震, 活動紹介2018

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
Mail: info@furusato-mirai.com

Copyright(c) 2016 特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂. All Rights

Cookie ポリシー

NPO法人 ふるさと未来創造堂

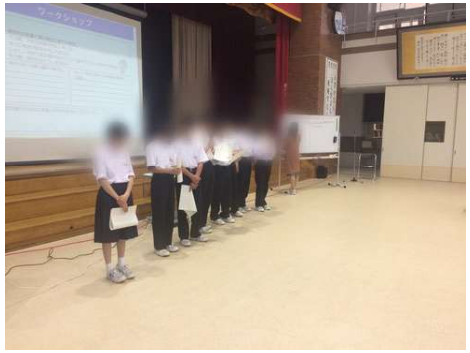
22日 6月 2018

【新潟市立巻東中学校】津波災害から自分の命を守ろう

平成30年6月21日（木）
新潟市立巻東中学校にて、各学年を対象に、「津波災害から自分の命を守ろう」をテーマに防災講座を行いました。

まずは、新潟地震で新潟市にきた津波の高さやどのような被害が起こったのかを確認し、津波の速さや津波からの逃げ方について学習しました。

次に、実際に巻東中学校周辺には津波がくるのか、津波ハザードマップで確認。想定では、巻東中学校周辺には津波がこないとされていますが、東日本大震災で被災した岩手県釜石市鵜住居地区のハザードマップと実際の被害の様子について説明し、ハザードマップはあくまでも予想で、自然の力は非常に大きく予想を超えることもしばしばあり、「想定にとらわれてはいけない」 ことを伝えました。



最後に、災害を自分ごととして捉えることができるよう、災害対応ゲーム「クロスロード」を応用したワークシートを作成し、班ごとに分かれ、ワークショップを行いました。

街中・海辺を想定した状況で「津波災害から自分や家族、友人の命を守るためにはどうしたらよいか」を考えさせました。その状況により、災害対応にはそれぞれメリット・デメリットがあり、素早く判断することの難しさについて実感してもらいました。
それを踏まえて班ごとに話し合った結果、「あらかじめ津波について家族と相談し、すぐに行動できるようにしておく」「遊ぶ前に避難場所を確認する」などの意見が発表されました。混乱した状況で最善の判断ができるよう、一人ひとり真剣に考え、日頃から備えをすることの重要性に気付いていただけたかと思います。

先日、最大震度6弱を観測した大阪府北部地震が発生しました。この学習を通して、生徒さんたちに「自分の命は自分で守る力」を少しでも身に付けさせることができたら幸いです。

NPO法人 ふるさと未来創造堂

13日 7月 2018

【新発田市防災キャンプ】新発田市立御免町小学校

平成30年6月28日（木）新発田あかたにの家にて、
新発田市立御免町小学校　第5学年96名の防災キャンプが1泊2日で行われました。

その中で、1日目の川活動と避難所のルールを決める活動を担当しました。

昨年同様、川活動は、理科の「流れる水の働き」と関連させて活動しました。

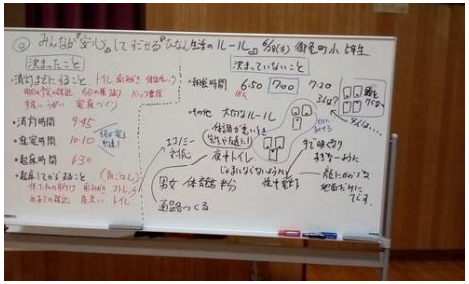
固い板の上に小石の塊と砂利の塊をのせ、加治川のカーブの内側と外側でそれぞれ川の中に沈めた時の「流れの速さ」「川の深さ」を予想させ、実際に沈めて確認する予定でしたが、当日は残念ながら雨。

そのため、まずはあかたにの家で雨がっぱを作り、実際に着て加治川へ。
そして、子ども達でカーブの内側と外側の川の流れの速さ等と予想した後、私たち講師2名で川に実際に入り、カーブの内側外側の堤防で同時にペットボトルを投げ、流れの速さを確認しました。

その後、あかたにの家に戻り、避難所体験です。非常食を食べたり消防署の方と体験を行いました。
そして夕食後に、避難所生活について考える活動を行いました。

まず、災害時の避難所の様子や困りごと、活躍していた小学生等について伝えました。

就寝時間や起床時間等、この活動の後から翌日の起床までは、
学校のしおりに書いてありません。
このあと「皆が安心して避難所生活を過ごせる」ように、決めておかなければならないことをみんなで話し合って決めました。



グループで考え、発表を行いました。
他にも避難所の生活の中で必要なルール、寝るときの場所などもみんなで納得して生活できるように相談して決めました。

なぜその時間やそのルールが必要なのかという理由を伝え合い、
「1人が良ければいい」ではなく、「皆が安心して過ごせる」ということを大切に、みんなで話し合うことができました。

長い避難所生活では、声を出せない人がストレスをためて体調を崩したりすることもある。
せっかく避難してきた避難所の生活で命を落としてほしくない。みんなの意見を聞くことが大切。と伝えると、
今まで発言していなかった子も、手を挙げてくれたり、どんどん自分の意見を伝えていた子が他の人の意見に耳を傾けながら考え、発言する様子が見られました。

他の人を思いやる、みんなのことを考えて行動できる、素晴らしい御免町の子どもたちでした。

カテゴリ： 学校関係者, 避難所, 洪水, 活動紹介2018

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
Mail: info@furusato-mirai.com

Copyright(c) 2016 特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂. All Rights

Cookie ポリシー

NPO法人 ふるさと未来創造堂

13日 7月 2018

【防災玉手箱】長岡市立浦瀬小学校

平成30年7月4日（水）長岡市立浦瀬小学校　第3学年18名
祖父母参観日にて、防災玉手箱の仕組みを活用し、洪水災害に関する防災講座を実施しました。

7.13水害では、被害を受けた浦瀬地域です。
洪水災害について、7.13水害当時の地域の様子を写真を使ってお話し、早めの避難が大切なことを伝えました。
祖父母の方は、経験されているため、大きくうなづきながら話を聞いてくださいました。
子どもたちからは、「聞いたことない」という声が出たので、ぜひ家に帰ってお父さんお母さんやおじいちゃんおばあちゃんに話を聞いてみてくださいと伝えました。
家族と災害時のことについて話をするきっかけになれば良いなと思います。

そして、台風や大雨など傘をさすのが危ない時もある、ということでビニール袋で雨がっぱ作りを行いました。
その後、大雨で避難してきた時に、家族の分の履物がないかもしれないということで新聞紙スリッパ作りを行いました。

今後も、家族と一緒に体験できる内容を充実させていきたいと思います。

防災の知恵 祖父母と学ぶ

浦瀬小 水害想定し特別授業

児童がビニール袋で雨がっぱを作り、防災意識を高めた特別授業＝4日、長岡市浦瀬町の浦瀬小

7・13水害から14年になる小中学校に防災士らを招いて講演する中の事業を活用しることや、テレビなどで避難する方法を学ぶ特別授業が行われた。阿賀野川の長岡市内でもすい時期に、本番時の行動を確認してもらうのが狙いだ。

児童は7・13水害で浸水した浸水などの写真を見ながら、本番が発生する前に避難することになったら、「たい、本番が発生したら家族で話をしないようにしたい」と作った雨がっぱを使ってみ「話を聞き、みんなが身近話した。

新潟日報　平成30年7月2日　掲載

カテゴリ： 学校関係者, 玉手箱, 洪水, 備え, 活動紹介2018

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
Mail: info@furusato-mirai.com

Copyright(c) 2016 特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂. All Rights

NPO法人 ふるさと未来創造堂

13日 7月 2018

【新発田市中学校防災講座】新発田市立佐々木中学校

平成30年7月12日（木）新発田市立佐々木中学校にて
地域の方と一緒に避難所運営ゲームHUGの体験講座を行いました。

全校67名が縦割りで12グループに分かれ、その中に地域の町内会やPTA保護者等に入っていただき、一緒に参加していただきました。

避難者カードやイベントカードを読み上げていくと、「もう来たよ！」「えー、それは我慢してよー」など言いながら、地域の方と一緒に、避難所をどう運営していくかを考えていました。

驚いたのは、たくさん避難者がきたり、問題が起きたりすると、サッと優先順位を考え、「こっち先に決めよう」という声が聞こえてきたことでした。

そして、体験が終わった後に、感想や気付いた事、また不安に感じたことをグループで共有しました。

「様々な事情を抱えた人が来るので、それぞれの対応が難しい」
「個人的な要望が出てきたりするので困る」
「こんな状況の中、家族にもし会えなかったら不安だ」
「慌てず、冷静に判断しなければいけない。リーダーが必要」
など、様々な気づきがありました。

また、佐々木地区のすべての人が安心して避難所生活を送るために「大切なキーワード」とその理由をグループで考えました。

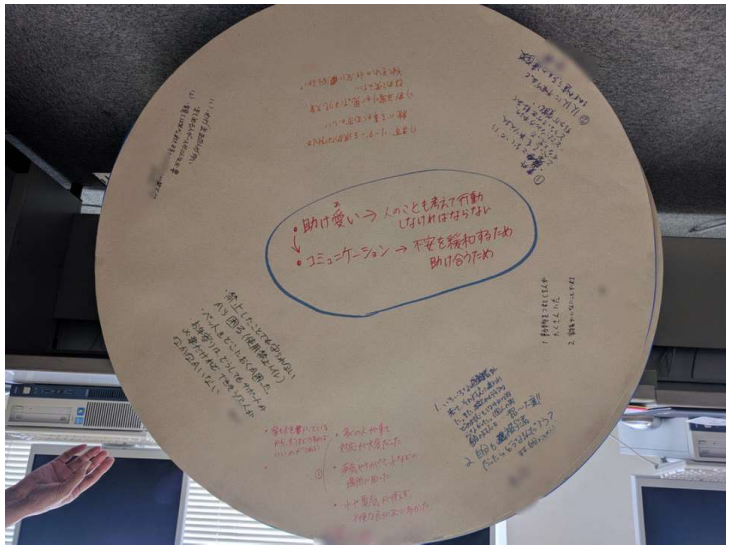
「思いやり」「地域との連携」「助け合い」「お互い様」「助け愛⇒コミュニケーション」「協力」など様々な意見が出ました。

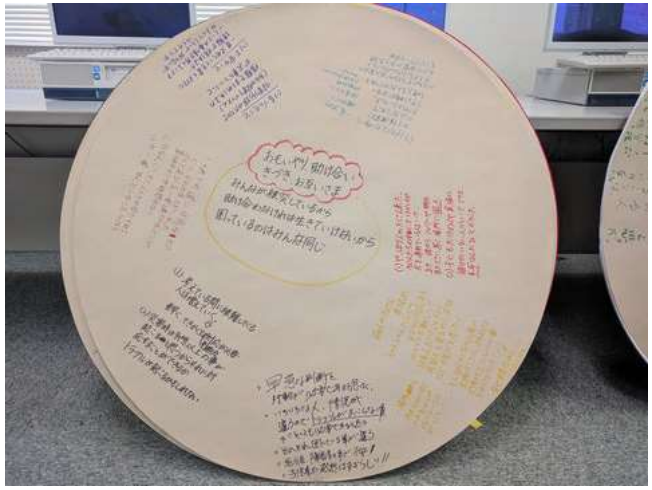
理由は「みんなが被災しているから、助け合わないと生きていけない」「不安を緩和するため、助けあうためにもコミュニケーションが大切」「自分がいいと思ってやることが、他の人にとってもいいこととは限らない」「自分以外にも困っている人がいる」
といった内容がでました。

話し合いの中で、地域の方が「どうしてそう思ったの？」「〇〇な事についてはどう思う？」といった声掛けをしてくださり、
中学生がしっかりと考え、発言し、地域の方がまたアドバイスする。というとても良い活動となりました。
地域のみなさま、ご協力いただきありがとうございました。

日頃から全校での活動を多くやっている佐々木中学校のみなさんは、縦割りでも１～３年生まで積極的に話し合う仲が良く、
そして、挨拶も笑顔も素敵なみなさんでした。

またお会いできるのを楽しみにしております。





カテゴリ： 家庭のみなさま, 学校関係者, 避難所, 地震, 活動紹介2018

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
Mail: info@furusato-mirai.com

Copyright(c) 2016 特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂. All Rights

Cookie ポリシー

NPO法人 ふるさと未来創造堂

31日 7月 2018

【防災玉手箱】登下校中に発生した地震災害から自分の命を守ろう

平成30年7月12日（木）
長岡市立新町小学校にて、全学年を対象に、「登下校中に発生した地震災害から自分の命を守ろう」をテーマに防災講座を行いました。平日の朝に起こった大阪府北部地震を受け、もし登下校中に地震が発生したら、どのように自分の命を守ればよいのか、登校班ごとに考える活動を行いました。

まずは、映像や写真資料を使いながら、地震の揺れの強さや被害について説明し、地震が発生した時には、3つのない場所（ものがおちない・たおれない・うごかない）で自分の命を守ることを学習しました。

次に、新町小学校区の写真（通学路2か所）を載せたワークシートを使い、グループワーク①・②を行いました。

①子どもたちにとって身近な場所である通学路の写真の中で、地震が発生した時の危険箇所を探し、どのような危険があるのか、登校班ごとに考える。
②もしこの写真の場所で地震が発生した時、どこの場所で、どのように行動して自分の命を守ればよいのか、登校班ごとに考える。

このグループワークを通して、普段見慣れている通学路にも、ブロック塀や電信柱、家のガラスや瓦が落ちてくるなどの危険箇所が沢山潜んでいることに気付き、地震が発生した時にはこのような危険箇所から離れて、3つのない場所で自分の命を守ることの大切さを確認することができました。

大人の目が離れる登下校中の子どもたちの命を守ることも、我々大人の役目だと思います。子どもたちの大切な命を守るために、私たちができることを日々取り組んでいきたいと思いま

NPO法人 ふるさと未来創造堂

17日 8月 2018

【PTA親子行事】上越市立富岡小学校

平成30年7月28日（土）17：00～19：00
上越市立富岡小学校PTA親子行事にて、防災講座を実施しました。

16：00～消防の地震に関する体験・講和、水消火器体験を行った後、ふるさと未来創造堂より、以下の活動を行いました。

①防災クイズラリー
　グループで学校の1階の様々な場所に貼ってあるクイズを探し、相談して答えを用紙に記入しました。その後の答え合わせでは、実際の体験談や過去の避難所の様子などを伝えながら行い、「えー！やばいじゃん。（自分の）うちはどうなんだろう。」とただ丸付けをするだけでなく、しっかりと説明を聞いてくれました。

②平成30年7月豪雨災害についての講話
　現地に行ってきたスタッフから、被害の様子や避難所の様子、早めの避難の大切さについて伝えました。
「この地域では、4mの高さまで水が来たけど亡くなった方がいない。ただ避難勧告や避難指示が出ただけでは、まだ大丈夫だろうと避難しない人もいる。なぜこの地域では、みんなが避難できたのだろう。日頃から訓練していたからか、地域の関係性で避難の伝達がうまくいったのか。今日は親子で参加してくれているので、今日帰ったら家族で避難について話し合ってほしい。」という話もありました。

③防災グッズ作り
　親子で新聞紙スリッパ作り・身近なもので応急手当を体験しました。
避難所で小学生が活躍していたこと、日頃の学校生活や周りの人との関りが災害時にもつながっていることを伝えまとめました。

クイズラリーでは、普段の活動グループではなく、その場で急遽こちらで組んだグループでし
　　しっかりと上級生が下級生に声掛けをしてくれ、スムーズに活動が進みました。

災害が増えてきている中、今回はじめて防災をテーマに親子活動をしたが、また来年度も実施したいとの声をいただきました。

企画運営してくださったPTAのみなさま、参加してくれたみなさまありがとうございました。

カテゴリ： 家庭のみなさま, 学校関係者, 洪水, 備え, 活動紹介2018

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
Mail: info@furusato-mirai.com

Copyright(c) 2016 特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂. All Rights

Cookie ポリシー

NPO法人 ふるさと未来創造堂

17日 8月 2018

【教職員研修会】燕市教育委員会

平成30年8月8日（水）燕市内小・中学校の防災教育担当職員20名を対象に、防災教育研修会が行われました。

～学校負担を減らし、持続可能な防災教育を！～
これからできる！既存教科や行事の活用で、相乗効果をもたらす「＋防災」
講師：中野雅嗣

①新潟県防災教育プログラムと関連した、既存教科や取組、行事等と関連させた防災教育の事例紹介
「教科の単元」「避難訓練」「参観日の活用」「朝の会・昼休み」「PTA行事」「地域資源（ひと・こと・もの）」等

②参加者が受け持っている対象学年ごとにグループで、県防災教育プログラム洪水災害編を参考に、「大人も子ども主体的に学べる工夫やアレンジ」をする。グループでアイディアを出しながら指導案のアレンジを考え、その後発表を行いました。

以下、参加者からの感想（抜粋）です。
・必要だとは思うのですが、時間の関係でなかなかできなかった防災教育。時数確保の工夫を教えていただいたので、
工夫して進めていく必要を強く感じました。
２学期の避難訓練から実践していきます。
・防災に関して、子どもたちに身近なものとして考える「種」をいただきました。
地域を考える総合の学習として２学期に進めていける一つの手がかりとなりました。
・防災教育プログラムの指導案を検討できるよい機会となった。「防災教育の授業をする。」と構えて負担を感じることはなく
「＋防災」という観点で、様々な場面で指導をしていけばよいということが改めて理解できた。

・防災についてどのような角度でアプローチしていけばよいかイメージができた。
また、防災教育への支援や外部の協力（講師）もお願いできるとのことだったのでぜひ活用していきたい。
・防災教育は単発で行うのではなく継続性のある持続可能な防災教育にしなければいけない。
そのためには、わくわくする防災教育（主体的に学ぶ）にしないといけないことが分かった。
・グループで話し合って指導案を検討する活動はとてもよかった。違う機会でもぜひやってみたいと思う。新しい視点をいただけた。
・大人がこれをやってみるとよいのではないかと思ったものは子どもにも響く。
防災教育に協力してくれる自治体、機関がたくさんあることが分ってよかった。

大上段に防災を考えるのでは無く、身近で気軽に取組めるふるさと共育としての防災を拡げていく学び方や防災を学習題材にした対話的な深い学びの教育活動をこれからも広めていくお手伝いをさせていただきます。

燕市様、燕市教育委員会様、貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

カテゴリ： 学校関係者, 活動紹介2018

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
Mail: info@furusato-mirai.com

Copyright(c) 2016 特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂. All Rights

Cookie ポリシー

NPO法人 ふるさと未来創造堂

17日 8月 2018

【PTA親子行事】上越市立稲田小学校

平成30年8月11日（土）上越市立稲田小学校にて、青少年育成協議会主催のイベント「防災フェス」にて、地震からの身の守り方のお話と防災グッズづくりコーナーを担当してきました。

地震からの身の守り方では「ものが『落ちてこない・倒れてこない・動いてこない」３つのない場所でしゃがんで頭を守ることを、自地域の写真から危険箇所を予想する活動を通じて親子で考えていただきました。
体験コーナーでは、段ボールパーテーション・段ボール椅子作りの体験、そして、毛布担架づくりと搬送体験を行いました。
その他、会場内には様々な体験コーナーが設置されて、社会福祉協議会による車椅子の操作体験、消防署によるロープワーク体験、体育館内には防災クイズラリー等盛りだくさん。
子どもも大人も一緒に学べる素敵な活動でした。最後は役員さんたちが作ってくれた炊き出しの豚汁いただいて終了。
当日は上越ケーブルテレビの取材もあり、番組「おじゃまします！みんなの学校」で紹介されましたよ。上越市にお住まいの方、再放送もあるかと思いますので是非ご覧くださいね！
地域の子どもを学校と地域が一緒に育てるとても良い機会にわくわく！お声がけいただきありがとうございました！

カテゴリ： 家庭のみなさま, 学校関係者, 活動紹介2018

NPO法人 ふるさと未来創造堂

03日 9月 2018

【新潟市立中之口中学校】語り部を活用した防災講座

平成30年8月30日（木）
新潟市立中之口中学校にて、3年生を対象に、「防災活動と地域コミュニティ　中越地震対応について」をテーマに防災講座を行いました。

語り部講師：長岡市青葉台3丁目自主防災会　畔上会長より、
・中越地震の地域の被害や避難所の様子
・当時の自主防災会の活躍と様々な課題
・避難所生活での中学生の活躍
・今の青葉台地域の防災体制　　等
について、ご講演いただきました。

※生徒たちは、総合学習「地域役立ち隊2018」として、各地域の自治会長へ防災体制等について、今後話を伺いに行くそうです。その事前学習として、本講座は実施されました。

実際に中越地震の際、自主防災会が中心となって避難所開設をされた経験から、水道や電気が止まっている中、学校のプールからトイレで使用する水をバケツに汲んで皆で協力して運んだことや、各家庭の冷蔵庫から食料を寄せ合ってバーベキュー形式で食事を摂ったこと等、地域住民や中学生の活躍で、避難所生活を乗り越えることができたとお話しいただきました。

最後に、生徒代表から「自分たちの地域を知ること、自分たちの地域を守ることが大事だと分かった。これから中学生の私たちにできることを考えたい」と感想の発表がありました。

畔上会長より「日頃の防災活動で被害の軽減は可能」「知っていることとできることは違う」「日頃の訓練が大事」との言葉があり、日頃からの地域コミュニティの構築は、防災活動に直結すると学びました。この学びを、本講座を受けた中学生から各地域へ広がっていければよいと感じました。

NPO法人 ふるさと未来創造堂

15日 9月 2018

【防災玉手箱】長岡市立日吉小学校

平成30年9月4（水）長岡市立日吉小学校にて、
防災グッズ作りと100円で買える防災グッズの展示を行いました。
講師：玉手箱地域サポーター　丸山隆氏

まずは、14：00～14：45第2学年保護者参観にて、
防災グッズ作りを行いました。
大きな災害が起きて、必要なものが手元にない時には、身の回りのものを工夫して作ることができることを伝えました。
また、災害時だけでなく、普段使いもできることも伝えました。

保護者「参観」ではなく、保護者「参加」で一緒にグッズ作りを行いましょうと講師の丸山さんよりお話があり、保護者の方も一緒に活動を行いました。

新聞紙スリッパとビニール袋雨がっぱの2つを作りました。
新聞紙スリッパは、新聞紙を半分に折ったところからスタートし、小さい子用のスリッパを作りました。
（幼稚園～低学年くらいまでのサイズになります）

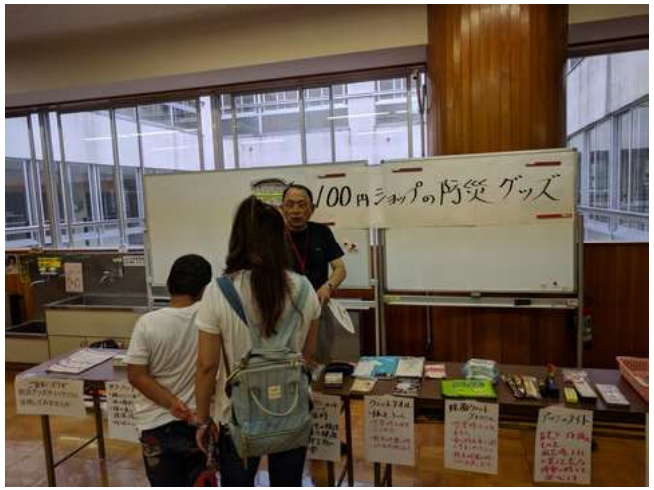
雨がっぱは、こどもたちのビニール袋には事前に線を引いたものを配りました。
「すごい！ほんとに雨具になった！」とみんな驚いていました。

授業終了後は、避難訓練でした。避難訓練後、メールの一斉配信で保護者に連絡がくるまで、保護者のみなさんには廊下に展示した防災グッズを見ていただきました。

以下、お母さん方が展示を見ながらつぶやいていた内容です。
　　をしたり、こどもたちの落書きにも使えるように自由帳やマジックがあるといいんだ

「こんな小さくなる給水バックが100円で買えるなんてびっくり。普段海に行く時にも使えそう。」
「避難所で子どもたちのストレスがたまらないようにトランプとかも入れておくと良いなんて、思いもしなかった。」
「自宅では何も備えていなくて、どうしようかなと言いながら時間が過ぎていたけど、こんなに手軽に揃えられるのなら、見に行こう。」

学校でこどもたちが防災について学ぶだけでなく、家庭でも備えや災害時の行動について一緒にお話しするきっかけになりました。



・ ーゴリ： 学校関係者, 玉手箱, 避難所, 備え, 避難訓練, 活動紹介2018

NPO法人 ふるさと未来創造堂

15日 9月 2018

【防災玉手箱】長岡市立福戸小学校

平成30年9月4日（火）10：55～11：20
長岡市立福戸小学校にて、避難訓練後に洪水災害に関する講話を行いました。
担当：ふるさと未来創造堂　中野明子・玉手箱地域サポーター　坂谷辰己

まずは、地震に関する避難訓練の様子を見学させていただきました。
休憩時間中の避難訓練でちょうど体育館でみていましたが、上級生が下級生の背中に手を添え、すぐに、だんごむしの態勢をとっていました。
その後グラウンドに向かう最中も上級生が手を取り、向かう姿がありました。

昨年度避難訓練後に地震からの身の守り方について講話を行っていたため、訓練終了後「ベルが鳴ってただ身を守るのではなく、一瞬でも、周りの危険を確認できた人」「もし、ものが落ちてきそうな場所などにいたら離れて身を守った人」と問いかけたところ、たくさんの子が手を挙げていました。

そして、次回の避難訓練は洪水災害を想定して行われることから、洪水災害からの身の守り方について20分程度お話をしました。
・洪水災害になると、まちや川の様子はどうなるの？
・平成30年度豪雨災害で被害にあった岡山県に行った時のお話（坂谷辰己）

・道路が水に浸かってしまう前に避難することが大切、そのための準備はどんなことがあるか？

体験談の最後、「この地域はこんな高さまで水がきたのに、一人もなくなった人がいなかったんだ。」というお話がありました。
なぜみんなが早めの避難をすることができたのだろう、と問いかけ、地震と違い、洪水災害は予測ができることを伝えました。

最後に３つのポイントを伝え、終了しました。
「天気予報などの情報をしっかり見ておくこと」
「日ごろから家族と話し合いが大切（どんなことを話し合っておくか）」
「非常用持ち出し品の準備をしておくこと」

カテゴリ： 学校関係者, 玉手箱, 洪水, 避難訓練, 活動紹介2018

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
Mail: info@furusato-mirai.com

Copyright(c) 2016 特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂. All Rights

Cookie ポリシー

NPO法人 ふるさと未来創造堂

15日 9月 2018

【新発田市防災キャンプ】新発田市立七葉小学校

平成30年9月11日（火）青少年宿泊施設あかたにの家にて、
新発田市立七葉小学校第4学年28名が一泊二日の防災キャンプを行いました。
講師：ふるさと未来創造堂　中野雅嗣

1日目夜の活動「避難所のついて学ぼう」を担当しました。
避難所生活の様子、避難所ではみんなが協力して助け合うことの大切さを伝えた後、カードを使って食糧を分け合う体験を行いました。

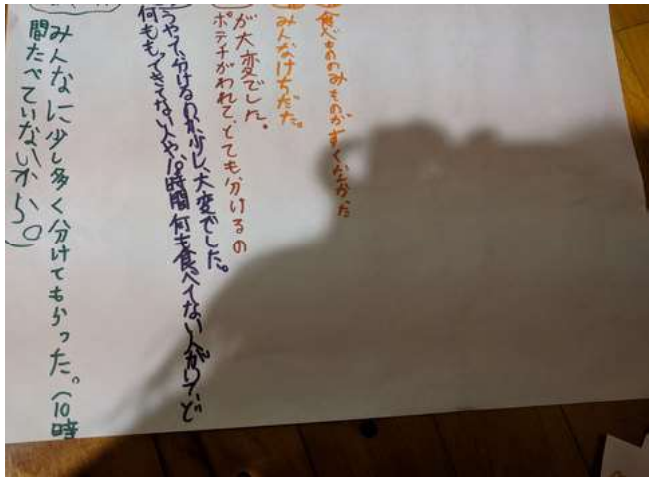
家族カードと食料カードをそれぞれ一枚ずつ配り、グループで人数やどんな人がいるか、どんな食料や道具があるかを確認した後、各グループでどうやって分けるかを考えました。

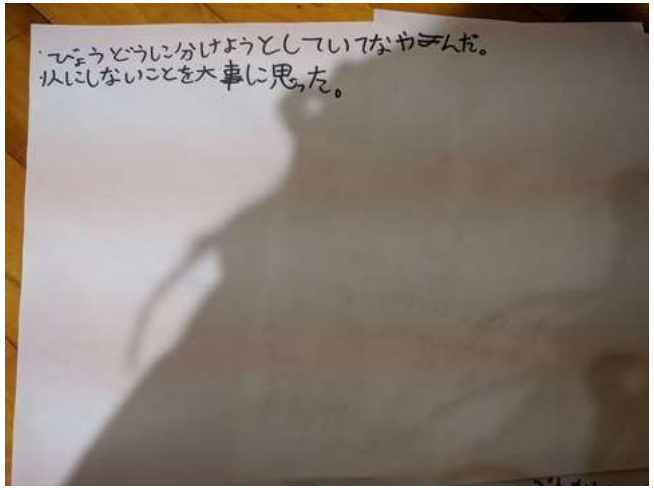
「あとから来るっていっている人の分も考えてあげないといけないと思う」「まずは、ずっと食べていない人にあげたらいい」
「〇〇ちゃんの弟の〇くんがもしお腹すいていたらって考えたら、先にあげた方がいいと思う」「それだったら、おばあさんとかだってそうじゃない？」など、状況を思い浮かべながら、自分のことだけじゃなく、色んな人の気持ちや状況をふまえて相談をしていました。

最後に、実際の避難所でどうだったかを伝え、それぞれ避難所で違う判断をしていた。
避難所では、「思いやりとゆずり合いが大切」「自分の家でしっかり準備することが大切」なことを伝えまとめました。

そして、「足湯体験」を翌日行うことになっていたため、足湯のやり方を説明しました。

避難所で行われる足湯は、ただ単にリラックスするだけでなく、足をお湯につけてもらい、ハンドマッサージをしながらお話を聞く。
そうすることで、避難者の溜め込んでいる気持ちを聞くことができたり、体調の変化に気付いたりと様々な効果があることを伝え、夜の活動は終了しました。





カテゴリ： 学校関係者, 避難所, 活動紹介2018

NPO法人 ふるさと未来創造堂

29日 10月 2018

【防災玉手箱】長岡市立大島小学校

長岡市立大島小学校5年生総合学習の中で、語り部の講話を2回行いました。
①平成30年9月12日（水）10：40～11：25
NPO法人くらしサポート越後川口の中村充様より、中越地震当時小千谷で被災された時のお話をしていただきました。

イラストを使って、部屋にあった本棚が倒れてきたことや、入り口がふさがって、真っ暗の中手探りで部屋を出たこと等をお話いただき、こどもたちはとても驚いていました。

また、避難所には行かず、車中泊をした時の様子や塾の先生の片付けの手伝いをしてとても喜ばれた経験から、「こんな自分にも何かできる」と気づいたこと等をお話いただきました。
最後に日ごろから地域の人とのつながりが大切だとメッセージを残してくれました。

中村様からの講話の後、そなえ館で学習を行いました。
そして、「自分たちにどんなことができるか」を考えるきっかけに、講話を行いました。
中越地震をきっかけに、「地域のために」活動している方、「県外の被災地のために」活動している方、2名よりお話いただきました。

②平成30年10月10日（水）10：40～11：25

「青葉台連合町内会長　畔上純一郎様より」

〇地域での取り組み
・各家庭に赤い旗を配り、赤い旗が出ている家は避難が完了の印
・地域の人にカードを書いてもらい、普段どの部屋で過ごすことが多いか、
　緊急時はこの入り口を壊して入っても良い等の情報も記載されている
〇中学生の役割
・中越地震の時中学生に声をかけたら手伝いをしてくれて、とても助かった

・地域の訓練に日頃から防災リーダーとして中学生も参加している

災害は防げないけど、日ごろの備えで被害は少なくすることはできる。とメッセージをいただきました。
こどもたちからは
「地域の協力で、多くの人が助けられるということが分かりました。1人じゃなくてもみんなと協力すればできるんだなと思いました。」
「赤色の旗やカードを地震の時のために用意することがすごいと思いました。地域の防災訓練も大事だと思いました。いざという時のために、地域の方と協力することができるようにまずあいさつをしたいです。」等の感想がありました。

「川口在住　平澤康宏様より」

〇中越地震が起きた時の様子
・仕事中、突然の大きな揺れで電気も一斉に止まった。自分の家は大丈夫だろうと
　車を走らせたが、近づくにつれて映画の中のような光景が目に入ってきた。
　途中小千谷で知らない人の家にお願いし車を停め、歩いて川口まで帰った。
・自衛隊の人がいっぱい来て、助けてくれた。
・「支援物資」と書かれた段ボールが届いた時、涙があふれた。
〇地震後に友人と始めた活動
・多くの人に支えられた。「ありがとう」を伝えたい。
　追悼式典をみんなではじめたこと。
・東日本大震災の時、届けることのできない古着が、物資を集めている場所に
　たくさん届いていることを知った。みんなの想いを届けたい。
　フリーマーケットでその古着を売り、（被災者には代金はもらわず持って行ってもらった）寄付をしたこと。

みんなにもきっとできることがある。特別な事じゃなくていいんだ。との言葉を、こどもたちが真剣なまなざしで聞いていました。
こどもたちから
「私は何か特別な事じゃなくて、自分たちにできる事をすると思う気持ちがすごいと思いました。私はみんなにも自分たちにもひがいにあわれた人たちのために何かできることを伝えたいので防災ポスターを作りたいと思いました。」
「私は平澤さんが最後にお話しした、地震から学んだことは「生きる」「助け合う」ということは大事だなと思いました。自分でやってみたいことは、募金活動をしてみたいです。」などの感想がありました。

カテゴリ： 活動紹介, 学校関係者, 玉手箱, 避難所, 地震

NPO法人 ふるさと未来創造堂

15日 9月 2018

【防災玉手箱】長岡市立東中学校

平成30年9月12日（水）長岡市立東中学校にて、
3年生総合学習防災コーで防災食作りを行いました。
講師：ふるさと未来創造堂　中野明子
サポート：玉手箱地域サポーター　坂谷辰己・鳥羽和子

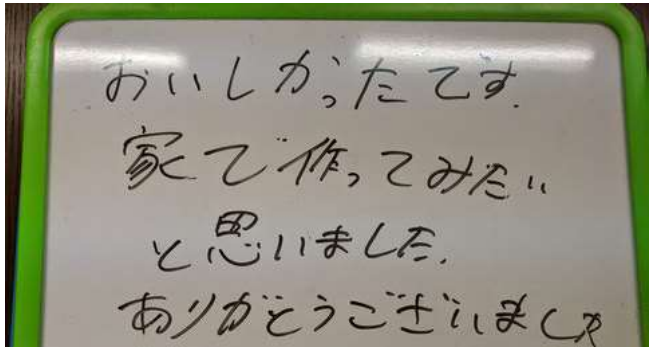
最初にミニホワイトボードを使ってアイスブレイク。
学校の施設を確認したり、保育園と合同の避難訓練、防災グッズ作り等、防災コースで学んできたことからみんなの考える「災害時の備えとは？」を問いかけると難しい！と言いながら、せーのでホワイトボードを頭に掲げました。
「心構え」「家族で話し合うこと」「防災グッズなど家庭で準備しておく」「相談」などたくさんの意見がありました。

そこで、災害に備えることをまったくしていなかった時に経験した中越大震災の時の経験を話しました。
そして、備えの一つとして、災害時のあたたかい食事作りを体験しました。

各家庭から、お米半合、野菜1種類をそれぞれ持ち寄り、みんなで分け合い、ごはんと野菜スープ、じゃがりこサラダを作りました。

声を掛け合いながら、ごはんや野菜を分け合い、協力して活動を行いました。

最後に、東日本大震災で炊き出しを行った時の話をしました。
あたたかい食事で元気をもらえたり、つらい心が癒された人もいること、体の栄養だけでなく、心の栄養にもなることを伝えました。
自分、家族のためだけでなく、中学生には地域の一員として、自分に何ができるかを考えながら、今後の活動を行ってほしいと伝え、終了しました。



帰り際、何か集まってるな？と思ったら、数名がミニホワイトボードにメッセージを残していってくれました。
とてもうれしかったです。ありがとうございました。

カテゴリ： 学校関係者, 玉手箱, 避難所, 備え, 活動紹介2018

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
J258-94-6119

NPO法人 ふるさと未来創造堂

27日 9月 2018

【小中合同防災講座】新潟市立臼井小・中学校

平成30年9月18日（火）新潟市立臼井小学校・中学校の合同防災教室を行いました。

13:30～14:40　臼井小学校全校児童とその保護者で、
災害時の食について知り、試食を体験を通し、食べることの大切さを学ぶ学習を行いました。

大きな災害が起こると電気・ガス・水道が使えなくなることを伝え、様々な困ることの中から食事が作れなくなることに着目させ、災害に備えた非常食を紹介しました。

グループに1食分のレスキューフーズを配り、作り方を説明しながら、準備（加温）をし、加温している間に、学年ごとに災害時の食を切り口とした体験や話し合い活動を行いました。

例）
＜中学年＞
・カンパンやアルファ化米等の災害時の食を食べ比べて、感想や気付きを共有する。
・1月頃の寒い時期に災害が起きた。避難所にいる人はどのような食事を食べたいか考えさせる。
・温かい食事の持つ力（お腹を満たす以外の食の力）について考える。

学年ごとの話し合いの後は、レスキューフーズの試食をしました。
高学年感想より
「非常食を食べていても栄養バランスがくずれるので、野菜などを一緒に食べるといいことが分かった。班のみんなで協力して作るのが楽しかったです。リーダーはとてもがんばったと思います。新潟の会社がレスキューフーズを開発したことにおどろきました。私も災害に備えて非常食を家で用意しようと思いました。学校で非常食を体験できてよかったです。」

小学校の講座の後は、小学校4～6年生と中学生の合同防災講座を14：50～15：50で行いました。

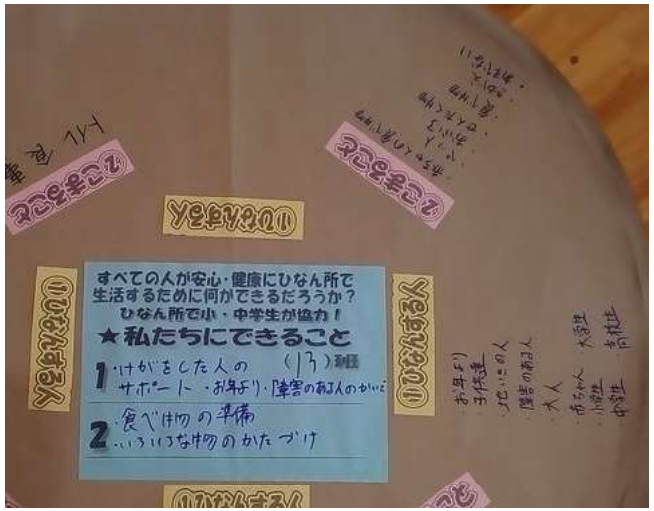
小・中学生が同じグループで災害時の食と福祉について学び、困っている人のために小・中学生が協力してできることを考える活動をしました。

衣・食・住の意味を紹介し、災害が起きた後の避難所生活で、安心・健康に生活をするために最低限必要なものはどれか確認。
「全ての人が安心・健康な避難所生活をすごせるように何ができるだろうか？」という学習を行うことを伝えました。

そして、具体的な状況を伝え、グループワークと発表を行いました。

最後は車いす体験です。
南区社会福祉協議会さんより車椅子の操作方法のポイントを伝えていただきました。
グループで、中学生が見本を見せ、その後、小学生は中学生から操作方法を教わりました。

以下、グループワークのえんたくん抜粋です。



カテゴリ： 学校関係者, 避難所, 備え, 活動紹介2018

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
Mail: info@furusato-mirai.com

Copyright(c) 2016 特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂. All Rights

Cookie ポリシー

NPO法人 ふるさと未来創造堂

21日 9月 2018

【防災玉手箱】長岡市立旭岡中学校

長岡市立旭岡中学校では、年間で各学年4回に分けて防災教育を計画しています。
その中の第2回目、3年生の原子力災害と2年生の地震災害についての学習をサポートさせていただきました。

＜第3学年　原子力災害講座＞
平成30年9月18日（火）8：45～9：35
講師：NPO法人ふるさと未来創造堂　中野雅嗣

原子力災害に関するクイズやミニホワイトボードに考えを書いたり近くの人とシェアをしながら講座を行いました。

柏崎刈羽原発から３０ｋｍ以内に自分たちが住んでいることを改めて知り、自分事として真剣に取り組んでいました。
以下生徒の感想の一部です。
・私は屋内退避というものを知らなくて、もしこの授業を受けていない時に原発で事故が起こったらあわてて逃げていたと思います。
　でも、皆が安全に避難するためには近い人から順に移動するとスムーズに移動できるし、外に出る時間も短くすむから、この屋内退避がもっと大勢の人に理解されることが大切だと思いました。

・ただ避難をするだけではなく、地域によって屋内にいないといけないこともあると知って、家の中でできることや非常食を用意しておくことを日常から心がけたいです。

・実際に災害が起きてからでは遅いのだと改めて気付かされました。自分の命だけでなく、大切な人の命を守るためにも「話し合う」とうことは大切な事だと思います。

・放射線の最初のイメージは「危険なもの」でした。ですが、具体的に何が危険でどうやったら身を守れるのかは分かりませんでした。原子力災害から身を守るためには、今日学んだ屋内退避をするときの注意点を思い出し、落ち着いて行動することが大切だと思いました。車でも放射線を浴びると知ったので、車で遠くに避難する人を優先したり、地域で連絡網をまわしたり協力し合う事も大事だと思いました。

第2学年　地震災害講座（避難所）
平成30年9月20日（木）13：45～14：45
講師：NPO法人ふるさと未来創造堂　中野明子
地域サポーター：小林俊晴氏・横山正雄氏

中越大震災の体験談を聞き、避難所での困りごとをグループで考えた後、実際の避難所での様子を伝えました。
その後グループで家族や地域の人が安心して避難所生活を送るために旭岡中学校の生徒として「自分にできること」を考え、発表を行いました。

体験談では、地域サポーターの小林さんより、地震発生時のまちの様子や「不安で近所に地域の人などがたくさん集まったけれど、知らない人も多くいたんだ」「そんな中避難所に行っても知らない人ばかりではないかと不安で車中泊をして過ごした」などを聞きました。
また中野明子より、子どもを連れて避難所に行った体験談として、避難所の様子と避難者の様子を伝えました。

中学生にできることをグループで話し合い、「コミュニケーションをとる」「周りをよく見て困っていそうな人に声をかける」「リヤカーを使って動けない人を運ぶ」「私たちが生きていれば周りに元気や安心を与えられるから、まずは生きる」など様々な考えがでてきました。

振り返りワークシートの「災害時の避難所で私が大切にしたいことは？」
「大切にしたいことを実現するために、あなたは今日からどうしますか」という問いを出しました。
以下、生徒のワークシートからの抜粋です。
・ボランティア精神を忘れないこと。積極的に地域のボランティア活動に参加していきたい。
・周りの状態を見て行動する。学校生活などの色々な場面で、自分にできることを考え、多くの人と話して関りをもっていきたい
・近くの人とコミュニケーション。勇気を出して困っている人に声をかける。
・周りを見て積極的に行動する。地震や災害について調べておく。情報をたくさんもっておく。

カテゴリ： 学校関係者, 玉手箱, 避難所, 地震, 原子力, 活動紹介2018

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る

NPO法人 ふるさと未来創造堂

23日 10月 2018

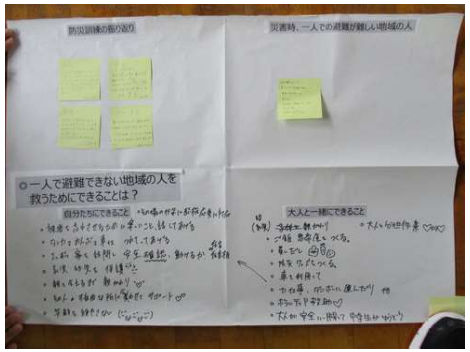
【燕市立小池中学校】防災訓練事前学習と当日の活動

燕市立小池中学校にて、
①平成30年9月19日（金）9：40～11：30
事前学習
②平成30年9月29日（土）10：50～12：05　小・中合同防災訓練
のサポートに行ってきました。

①の事前学習では、避難所について写真資料を見ながらどんな困りごとがあるかを知り、高齢者や病気の人等には特にどんな課題があるのかを紹介しました。
その後、段ボールの活用として、段ボールベッド、段ボールトイレ、段ボールパーテーション（間仕切り）を作る体験を行いました。

最後に、防災訓練に向けて以下のことを伝えました。
・地域の戦力として中学生が期待されていること
・当日は大人だけでなく、小学生も参加する。
　かみ砕いて分かりやすく伝える工夫も大切なこと

②の小・中合同の防災訓練では、中学生が受付や訓練の手伝い、地域の方に段ボールを使った活用方法を紹介しました。



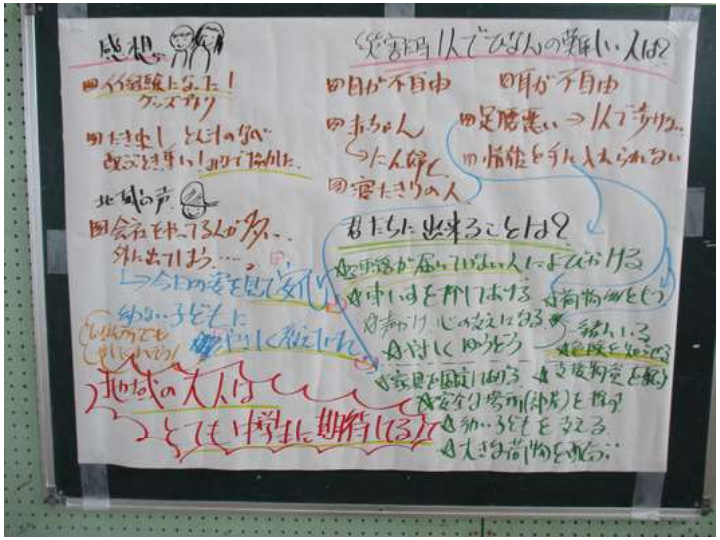
訓練終了後、やってみての感想を中学生から発表してもらい、校長先生から中学生への願いを伝えていただきました。
校長先生からの願いを聞き、今日の訓練に参加しての振り返りをグループで付箋紙を使って行いました。

その後、「災害弱者を守るために中学生にできること」を考えるグループワークを行いました。
・災害時に高齢者などは1人で逃げることが
　るだろうか。と問いかけ、災害時に1人
　げることが難しい人をそれぞれ洗い出す

・1人での避難が難しい人たちを助けるためにできることを考え、「中学生にできること」「大人と一緒にできること」に分け書き出しました。

それぞれのグループから発表してもらい、災害時の避難所や普段から地域で活躍している中学生の例を伝えました。

中学生は地域の大きな戦力であることを伝え、まとめました。



カテゴリ： 家庭のみなさま, 学校関係者, 避難所, 備え, 活動紹介2018

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
Mail: info@furusato-mirai.com

Copyright(c) 2016 特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂. All Rights

Cookie ポリシー

NPO法人 ふるさと未来創造堂

24日 10月 2018

【新発田市立第一中学校】洪水災害発生時の対処行動

平成30年9月19日（水）14：30〜15：20
新発田市立第一中学校にて防災講座を行いました。

１）過去の災害（7.13水害や23年新潟・福島豪雨災害を主に）の写真資料等から
被害状況を知る。洪水災害からの避難情報と避難方法を知る。

２）対処行動をクイズ形式で考えさせる。
具体的な状況下での災害発生を想定し「その時、どのように行動するか？」をYes、Noの2択で選択する設問内容を実施。
答えに絶対的な正解はない。2択の選択には一長一短な点があることを伝え、その時の最善だと思う行動と理由を考えさせる。
３）選択した判断及び理由をワークシートに記入させ、近くの生徒4名程度と共有する。
解説で、地域の状況や過去の災害事例を交えて解説する。

４）まとめ・振り返り
洪水災害は事前に予測ができる。早めの避難が重要。早めの行動を起こすために日頃から準備しておくことと家族で調べ、相談しておく大切さを伝える。（避難のタイミングや避難場所を数か所決める、ハザードマップを事前に確認、家庭の備え、連絡手段等）

カテゴリ： 学校関係者, 洪水, 活動紹介2018

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人 ふるさと未来創造堂

21日 9月 2018

【防災玉手箱】長岡市立太田小・中学校避難訓練

平成30年9月21日（金）長岡市立太田小学校・中学校の避難訓練がありました。
地震に関する避難訓練を行った後、地震体験車を全員で体験しました。

まず、避難訓練前に教室の方に見に行くと、素敵なひとコマがありましたので、ご紹介します。

教室にいた女の子が「お手洗いに行こう」とつぶやいた時、そばにいた男の子が「おい、何が起こるかわからないから1人にするのは危ないぞ」「そうだ。おれも今のうちに行ってよう。」というやり取りがあり、みんなでトイレに行く姿がありました。
地震の訓練があると聞いていたからだけでなく、きっと普段から自分のことだけでなく、友達のこと考えて行動できる子たちなんだなと感じました。

その後、すぐに非常ベルがなり、サッとみんなで集まり頭を守っていました。
先生のいない時間に非常ベルがなりましたが、小・中とも話したりふざけたりしている人は1人もなく、静かに放送で指示があるまで身を守る行動をとっていました。

この日は雨が少し降っており、体育館に集合となりました。
先生が報告を行っている間も、頭を守りながら静かに待機していました。

校長先生のお話の後、地震からの身の守り方について少しお話をさせていただきました。

そして、地震体験車の体験です。
小学生はすごい揺れでとても驚いていた様子でした。
中学生の生徒の中で、起震車から緊急地震速報が聞こえると「今のうちにテーブルに！」と声を出した子がいました。その声につられ、他の生徒もテーブルの下に移動していました。

ゆとりの心と行動力のある太田小・中学校のみなさんでした。

カテゴリ： 学校関係者, 玉手箱, 地震, 避難訓練, 活動紹介2018

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
Mail: info@furusato-mirai.com

Copyright(c) 2016 特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂. All Rights

Cookie ポリシー

NPO法人 ふるさと未来創造堂

27日 9月 2018

【防災玉手箱】長岡市立堤岡中学校

平成30年9月27日（木）8：50～9：40
長岡市立堤岡中学校第２学年のみなさんに防災講座を行いました。

地域サポーターの方からの体験談や防災グッズ作りの体験を行いました。
洪水災害からの身の守り方を知り、身を守った後に避難所で中学生にできることを考えることができました。

「お年寄りや小さい子に声をかけてあげたい」「率先して避難所の運営を手伝いたい」「新聞紙スリッパ、ほんとうにあたたかい」「内水氾濫、外水氾濫という種類があるのを初めて知った」「改めてハザードマップを確認したい」等の生徒の声がありました。

以下講座のおおまかな流れです。

①洪水災害って？
・写真資料からどんな被害があるのか、近年毎年のように洪水災害が起きていることを知る
・平成30年7月豪雨の現地の様子を地域サポーターの坂谷辰己氏からお話を聞く

②洪水災害から身を守るためには？
・水につかってからの避難はとても危険であること、早めの情報収集、早めの避難（自宅の2階含む）が大切
・自宅のある場所や状況によって、自宅にとどまった方がいいか、別の建物へ避難した方が良いか変わってくる。そのため、自分の地域をよく知っておくことが大切
③避難所について

・この中学校も避難所になる・中学生にできることとして、身近な新聞紙を使ってスリッパ作りを体験
・避難所で小中学生がどんなことを手伝っていたか紹介し、他にも避難所で自分にできることはどんなことがあるか考える

NPO法人 ふるさと未来創造堂

29日 10月 2018

【防災玉手箱】長岡市立大島小学校

長岡市立大島小学校5年生総合学習の中で、語り部の講話を2回行いました。
①平成30年9月12日（水）10：40～11：25
NPO法人くらしサポート越後川口の中村充様より、中越地震当時小千谷で被災された時のお話をしていただきました。

イラストを使って、部屋にあった本棚が倒れてきたことや、入り口がふさがって、真っ暗の中手探りで部屋を出たこと等をお話いただき、こどもたちはとても驚いていました。

また、避難所には行かず、車中泊をした時の様子や塾の先生の片付けの手伝いをしてとても喜ばれた経験から、「こんな自分にも何かできる」と気づいたこと等をお話いただきました。
最後に日ごろから地域の人とのつながりが大切だとメッセージを残してくれました。

中村様からの講話の後、そなえ館で学習を行いました。
そして、「自分たちにどんなことができるか」を考えるきっかけに、講話を行いました。
中越地震をきっかけに、「地域のために」活動している方、「県外の被災地のために」活動している方、2名よりお話いただきました。

②平成30年10月10日（水）10：40～11：25

「青葉台連合町内会長　畔上純一郎様より」

〇地域での取り組み
・各家庭に赤い旗を配り、赤い旗が出ている家は避難が完了の印
・地域の人にカードを書いてもらい、普段どの部屋で過ごすことが多いか、
　緊急時はこの入り口を壊して入っても良い等の情報も記載されている
〇中学生の役割
・中越地震の時中学生に声をかけたら手伝いをしてくれて、とても助かった

・地域の訓練に日頃から防災リーダーとして中学生も参加している

災害は防げないけど、日ごろの備えで被害は少なくすることはできる。とメッセージをいただきました。
こどもたちからは
「地域の協力で、多くの人が助けられるということが分かりました。1人じゃなくてもみんなと協力すればできるんだなと思いました。」
「赤色の旗やカードを地震の時のために用意することがすごいと思いました。地域の防災訓練も大事だと思いました。いざという時のために、地域の方と協力することができるようにまずあいさつをしたいです。」等の感想がありました。

「川口在住　平澤康宏様より」

〇中越地震が起きた時の様子
・仕事中、突然の大きな揺れで電気も一斉に止まった。自分の家は大丈夫だろうと
　車を走らせたが、近づくにつれて映画の中のような光景が目に入ってきた。
　途中小千谷で知らない人の家にお願いし車を停め、歩いて川口まで帰った。
・自衛隊の人がいっぱい来て、助けてくれた。
・「支援物資」と書かれた段ボールが届いた時、涙があふれた。
〇地震後に友人と始めた活動
・多くの人に支えられた。「ありがとう」を伝えたい。
　追悼式典をみんなではじめたこと。
・東日本大震災の時、届けることのできない古着が、物資を集めている場所に
　たくさん届いていることを知った。みんなの想いを届けたい。
　フリーマーケットでその古着を売り、（被災者には代金はもらわず持って行ってもらった）寄付をしたこと。

みんなにもきっとできることがある。特別な事じゃなくていいんだ。との言葉を、こどもたちが真剣なまなざしで聞いていました。
こどもたちから
「私は何か特別な事じゃなくて、自分たちにできる事をすると思う気持ちがすごいと思いました。私はみんなにも自分たちにもひがいにあわれた人たちのために何かできることを伝えたいので防災ポスターを作りたいと思いました。」
「私は平澤さんが最後にお話しした、地震から学んだことは「生きる」「助け合う」ということは大事だなと思いました。自分でやってみたいことは、募金活動をしてみたいです。」などの感想がありました。

カテゴリ： 活動紹介, 学校関係者, 玉手箱, 避難所, 地震

NPO法人 ふるさと未来創造堂

29日 10月 2018

【新潟市立葛塚中学校】避難所運営について考える

新潟市立葛塚中学校にて、防災講座を行いました。
平成30年10月2日（火）13：45～15：35
「避難所の運営」についてグループ活動をしながら学習しました。

実際の災害時の避難所の様子、避難所の開設・運営について伝え、避難所運営で必要になってくる役割や実際に起こった課題を題材に、グループで「避難所運営をする立場の人」として、どのように対応するかを考え、全体で発表を行いました。

そして、実際の避難所で課題に対しどのように対応したか、失敗例等を含めて紹介し、災害時の避難所でどのようなことが大切になるのかを伝えました。

一人一人が避難所の運営をする人として大切だと思うことをグループで共有し、災害時の避難所で、「私たちが大切にすること（視点・気持ち等）」「そのために私たちにできること」をグループで話し合い、ボードにまとめました。

その後、平成30年10月13日（土）
葛塚東小学校区防災会と新潟市葛塚中学校主催の合同避難訓練

地域の方が中学校へ避難してこられた後、地域の班で、消火器や段ボールベッド、応急手当、炊き出し、等の訓練を行いました。

その時、地域の方を誘導したり、体験活動のサポートを中学生が行いました。

最初は戸惑っている様子もありましたが、地域の方に声をかけたり、率先して訓練の準備を行っていました。

当法人事務局長の中野雅嗣より「自主防災会結成の必要性と学校と連携する必要性」というテーマで講話も行いました。

カテゴリ： 活動紹介, 家庭のみなさま, 学校関係者, 避難所

NPO法人 ふるさと未来創造堂

30日 10月 2018

【新潟市立白根北中学校】ハザードマップを使った洪水災害に関する学習

平成30年10月3日（水）14：30～16：00
新潟市白根北中学校にて、全校防災学習を行いました。

１．自分たちの住む白根地域を知る
平成23年新潟・福島豪雨災害等の写真を見て、洪水災害の被害を知り、この白根北中学区は、中之口川と信濃川に挟まれており、洪水災害が起こると広く浸水する可能性があることを確認

２．グループワーク①避難経路を考える
南区役所さんが準備してくださった学区のハザードマップを見て、どのようなことが読み取れるかグループで確認した後、グループ内全員の自宅のおおまかな場所をハザードマップで探し、浸水深と近くの避難場所を確認し、避難経路を考える

３．グループワーク②
グループで考えた避難場所や避難経路について数名から発表してもらい、平成16年7.13水害を体験した人の話（映像）を聞く。
人間の逃げられない心理について説明し、「自分や家族の命を守るためにどんなことが大切か」をグループで話し合い、数グループから発表を行いました。

最後に、災害から自分の命を守るためには災害が起こる前から命を守る行動について考え、備えることが重要であることを伝え、まとめました。

カテゴリ： 活動紹介, 学校関係者, 洪水

NPO法人 ふるさと未来創造堂

06日 12月 2018

【防災玉手箱】長岡市立川口小学校

長岡市立川口小学校の防災メモリアル旬間の中で、防災教室を実施しました。

①10月9日　全校朝会にて、今日からはじまる防災メモリアル旬間に向けて、川口地域の吉原昌隆様より中越地震の講話を行いました。

②10月19日　1限：低学年、2限：中学年、3限：高学年
を対象に防災学習を行いました。

低学年の主なテーマは「地震からの身の守り方」です。
学校内外、お店、自宅の中での地震からの身の守り方を学習した後、友達と公園で遊んでいた時に地震が発生した時どのようにして身を守るかグループで話し合いを行いました。

中学年は「避難所での困りごとを知り、小学生にできること」を考える学習です。
まず中越地震の時に川口地域の人で助け合って生活したことや、避難所の様子、小学生や中学生の手伝いの様子を伝えました。
避難所では、どんなことに困るか、また小学生にどんなことができるかをグループで考え、発表を行いました。

高学年は「災害から自分の家族、下学年、地域の人を守るために自分にできること」を考える学習を行いました。
まずは、防災玉手箱の貸出ＤＶＤを見ました。
（東日本大震災の被害の様子や津波発生のメカニズム、実験映像での津波の破壊力、釜石市鵜住居地区の様子と被災体験談、釜石の奇跡の立役者となった中学生の声など）

その後、具体的な状況設定を伝え、災害発生時の行動についてグループで考えました。
まずは自分の身を守ることが第一、そして揺れがおさまった後は周りの人に声をかけ避難することを伝えまとめました。

普段の生活とつなげながら、こどもたちが自分ごととして意識しながら学習を行っていました。

災害の経験がない子どもたちにどのように語り継いでいくか、また実際に災害が起きた時、自分の身を守ることができる学習にするために、先生方と一緒に学習を考えていきたいと思います。

カテゴリ： 活動紹介, 学校関係者, 玉手箱, 避難所, 津波, 地震

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
Mail: info@furusato-mirai.com

Copyright(c) 2016 特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂. All Rights

Cookie ポリシー

NPO法人 ふるさと未来創造堂

29日 10月 2018

【新発田市立二葉小学校】二葉フェスティバル（PTA行事）

平成30年10月14日（日）新発田市立二葉小学校にて
PTA親子行事の中で防災講座を行いました。

近年の災害時の状況について親子で学びました。
その後、自分たちで備え、ないものは工夫し、家族や近所の人協力して災害を乗り越えることを伝え、親子混合チームでグループになりクイズ対決を行いました。

火事が起きたら…暗い中逃げる時は…給水車がきた…
そんな災害時の状況を伝え、それぞれどんなものが必要か、
各自持っている「持ち物カード」を使い、これが使えるんじゃないか？と親子で相談しながら選びました。
グループでそれぞれ持っているカードを出し合い、協力して乗り越える様子も見られました。

各問題、発表してもらいましたが、「発表してくれる人！」という問いかけに大勢の子が手を挙げてくれました。
自信をもって、積極的に発言する姿が素晴らしかったです。

発表後に実際の災害時の様子を伝えながら答え合わせを行い、正解している子たちから「いえ～い！」と元気な声があり、楽しみながら学ぶことができた様子でした。

毎年二葉小学校では、PTA行事の二葉フェスティバルで防災講座を行っています。
親子バンドを呼び、その家族から素敵な歌と被災体験を聞いた年、防災グッズ作りを行った年、非常用持ち出し品を家族と考えた年、等々
1年に1回家族で防災について考え、話す、そんな1日になっています。
これからも素敵な二葉小学校さんを応援していきたいと思います。

カテゴリ： 活動紹介, 家庭のみなさま, 学校関係者, 備え, 地震

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
Mail: info@furusato-mirai.com

Copyright(c) 2016 特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂. All Rights

Cookie ポリシー

NPO法人 ふるさと未来創造堂

31日 10月 2018

【防災玉手箱】長岡市立江陽中学校

平成30年10月20日（土）10：40～12：30
長岡市立江陽中学校にて地域の方と一緒に学ぶ防災学習を実施しました。

町内会長さん等の地域の方からお越しいただき、生徒と一緒にグループで話し合いをする学習が2年目になります。
今年も10名を超える地域の方から参加いただきました。

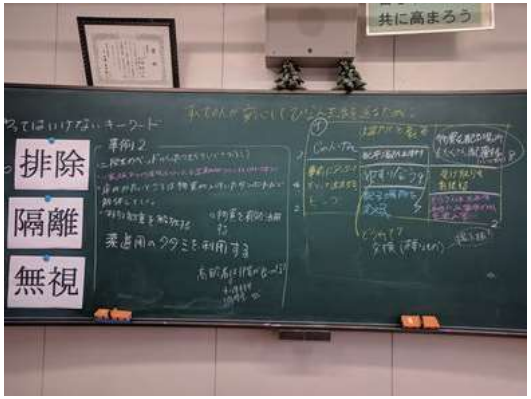
①体育館で全校・地域で災害時の避難所の様子や課題について知る
（講話：NPO法人ふるさと未来創造堂　中野雅嗣）
・災害時にマニュアルに頼るだけでは守れない命があること、
　みんなのこれまでの経験と想像と創造を大切にすること等を伝える。

②各地域ごとに教室に分かれ、避難所で起こる様々な課題を地域の大人と一緒にグループで話し合い
・課題1～3（実際に避難所でおきた問題を例に）の対応策を考え、発表する
・実際の避難所ではどのように対応したか伝える
（全体の進行：放送にて中野雅嗣、各教室進行：先生）

③全ての人が安心して過ごせる避難所を目指して、「大切なキーワードとそう思う理由」をグループで話し合い
・発表を聞いた地域の方から中学生にメッセージを伝える。

④放送で全ての人が安心して過ごせる環境を実現するために、大人も子どもも相手を理解しようとする心を持ち、話し合うこと（対話）が大切なことを伝えてまとめる

こどもたちから発表されたキーワードの発表では、
「認め合い、支え合い、学び合い、あいさつ、４つの愛を大切に」「すべての人が愛で包まれる避難所にしたいから、『ゆずり合い』」
　　ていました。



それぞれ教室内で担当の先生が生徒の様子を見ながら、グループワークを進め、まとめ方や発表方法も様々工夫されており、
各地域活発に意見交換が行われました。
地域の方からも「子供達のいろいろな意見が聞けて、災害、防災についての考え方が少しではありますが理解できたことは良かったと思う。同じ町内の子供達との話し合いも良かったと思う。」「災害時は全ての人の力を借用しなければならず、中学生も自分の立ち位置で何が出来るのか考える事も大事な事であると思う。」などの感想があがりました。

これからも地域とともに学ぶ学習の応援をしていきたいと思います。

カテゴリ： 活動紹介, 家庭のみなさま, 学校関係者, 避難所

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
つくする「防災教育」をきっかけに、
こい未来を創る

NPO法人 ふるさと未来創造堂

06日 12月 2018

【関川村立関川中学校】まち歩き防災マップ作り

平成30年10月21日（日）関川村立関川中学校にて、
まち歩き防災マップ作りの学習を行いました。

この日関川村では、総合防災訓練があり、その日に合わせて関川中学校では防災学習を行いました。

地震、火事、土砂、洪水、防犯の5つをテーマに全校で学習を行ったあと、それぞれ自分たちの住む地域にバスや車で向かい、まち歩きを行いました。
関川村全体が関川中学校区のため、通学に40分かかる生徒もいます。

自宅の近隣で約40グループに分かれ、
地域の方や先生、保護者が一緒にグループに入り、地域のことを教えてもらいながら、まち歩きを行いました。

戻ってきたグループから、撮ってきた写真と気付いたことをマップにしていきました。

発表では、
「私たちの地域は避難所まで距離があるから、より早い避難行動が必要」
「土砂災害が起きる前に、廃校に学校が一番丈夫だからそこまで避難する」
「土砂災害警戒区域に挟まれていて、私たちの区域は孤立してしまう可能性がある。大雨の時は、取り残される人がいないように、早めに地域の人に声掛けをし、全員で避難する。」
などがありました。

の方と一緒に活動する中で、地域を知り、地域の一員として自分たちがどうするか、しっかり考えていました。

後日、中学生はこのマップを小学生に発表するそうです。
今後も郷土に根差した防災学習を続けていく中で、私たちにできることがあれば、サポートさせていただきたいと思います。

カテゴリ： 活動紹介, 学校関係者, 洪水, 地震, まち歩き, 土砂災害

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
Mail: info@furusato-mirai.com

Copyright(c) 2016 特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂. All Rights

Cookie ポリシー

NPO法人 ふるさと未来創造堂

11日 12月 2018

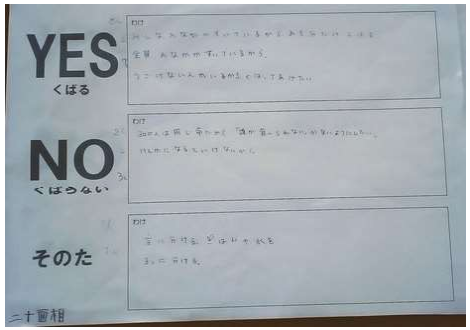
【防災玉手箱】長岡市立阪之上小学校

平成30年10月23日（火）13：40～14：30
長岡市立阪之上小学校にて、「阪之上防災の日」に防災集会を行いました。

阪之上小学校では、毎年縦割り班で防災について考える活動を行っています。
今年のテーマは
「災害時をイメージしよう
～クロスロード『あなたはどちらを選びますか？』～」

まずは、災害時の状況について知るために、中越大震災の時に阪之上小学校が避難所になった時のお話をしました。
そして、避難所で生活するときに心がけることをキーワードで伝えました。

その後、村（縦割り班）に分かれ話し合い活動を行いました。



避難所で起こる「正解のない課題」の対応策を、まずは個人でＹＥＳ、ＮＯどちらかを考え、班の中で発表しました。
そして1年生から6年生まで一緒に、「なぜそう思ったのか」理由を伝えあう中で、それぞれの良い点に気付いたり、さらにこういうやり方もあるんじゃないか、と意見交換を行いました。

最後に村の意見としてまとめ、発表を行いました。

話し合いの中で、「不公平にならないように」「お年寄りや赤ちゃんを優先した方がいい」「けんかになったらどうしよう」「悲しすぎて食欲もない人がいるかもしれない」「親切心を大切にしたい」など
様々な意見が出てきました。

さんの意見を聞きながら、高学年が村（班）をまとめている姿がとてもたくましかったで

災害時には、みんなで相談し、協力して乗り越えることを伝えまとめました。

この防災集会での活動は、先生のこどもたちへの想い・そのための活動について話し合い、サポートする形で進めています。
こどもたちのために、そして先生方のために、わたしたちも活動し、学び続けたいと思います。

カテゴリ： 活動紹介, 学校関係者, 玉手箱, 避難所

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
Mail: info@furusato-mirai.com

Copyright(c) 2016 特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂. All Rights

Cookie ポリシー

NPO法人 ふるさと未来創造堂

06日 12月 2018

【防災玉手箱】長岡市立山本中学校

平成30年10月24日（水）長岡市立山本中学校にて、
中越地震に関する講話と新聞紙スリッパ作りを行いました。

小千谷で被災した経験について（被災した時の気持ちや避難所の様子）
中越市民防災安全士会の石黒みち子様より講演いただき、
その後新聞紙スリッパ作りを行いました。

学校で防災について学んでいる生徒たちですが、
生の体験談に真剣に耳を傾け、より一層防災への意識を高める機会となりました。

カテゴリ： 活動紹介, 学校関係者, 玉手箱, 避難所, 備え, 地震

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
Mail: info@furusato-mirai.com

Copyright(c) 2016 特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂. All Rights

NPO法人 ふるさと未来創造堂

06日 12月 2018

【小千谷市立千田小学校】災害食作り

平成30年10月26日（金）14：00～15：30
小千谷市立千田小学校6年生を対象に災害食作りを行いました。

災害時に偏りがちな栄養を補うためにも、野菜スープやサラダも大切なことを伝え、災害食作りを行いました。

一つ一つの工程を、丁寧に確認しながらも、無駄なくスピーディに進めていく姿にとても驚きました。
また片付けの際に、試食時に使ったお弁当用カップもきれいに全員分重ね、ゴミの分別だけでなく、いかに小さく捨てやすくまとめるかを考えて片付けを行っていました。

その後10月29日に、ポトフを全員分作ってふるまったそうです。
節水しながらの調理や新聞紙を使った工夫など26日の体験を生かし、活動を行ったと校長先生よりご報告をいただきました。

「自分にできることを考え行動する」ということが、日ごろの学校生活で身についているんだなぁと感じました。
先生のこどもたちへの声掛けなど、スタッフも学ぶことが多い時間となりました。ありがとうございました。

カテゴリ： 活動紹介, 学校関係者

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

NPO法人 ふるさと未来創造堂

18日 11月 2018

【防災玉手箱】長岡市立新町小学校

平成30年10月28日（日）長岡市立新町小学校にて、
「ものづくりワークショップ」が開催され、その中で防災グッズ作りのコーナーを担当しました。

学区の特徴「ものづくりの街」を生かして、様々な企業や団体等の体験のコーナーを親子でまわって体験をしました。
体験を通して、ものづくりの楽しさやそれに関わる人の思いに触れてほしいという先生方の願いがこもったイベントでした。

私たちが担当したのは、新聞紙スリッパ作りとペットボトルランタン作りでした。
防災や日常の危険からの身の守り方を学ぶことができる防災ダックというカードの体験も行いました。

楽しみながら、防災についても触れることができ、良い時間となりました。

カテゴリ： 活動紹介, 家庭のみなさま, 学校関係者, 玉手箱, 避難所, 備え

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
0258-94-4582

NPO法人 ふるさと未来創造堂

11日 12月 2018

【防災玉手箱】長岡市立中島小学校

長岡市立中島小学校では、長岡市防災玉手箱の学校サポートとして、避難訓練の事前学習の講師派遣、訓練当日に地域サポーターからの訓練講評を行いました。

①平成30年10月29日（月）全校朝会
「Ｊアラートってなあに？」　講師：ＮＰＯ法人ふるさと未来創造堂　事務局長　中野雅嗣
②平成30年11月1日（木）避難訓練
訓練見学・講評・こどもたちの感想への一言　地域サポーター：防災士　小林　俊晴氏

全校朝会では、1年生にもわかるようにイラストを使いながら、以下2点を中心に伝えました。
・どんな時にＪアラートがなるの？
・Ｊアラートがなったらどう行動したらいい？

地域サポーターから、
・ハンカチなどで口を押え、落ち着いて階段を降りていた。
・みんな真剣に避難、おしゃべりせず笑っている人もいなかった。
・体育館集合時もみんな静かにしていてよかった。
・本部へのクラスごとの安否確認報告が大きな声で、明瞭に伝わった
等の講評を行い、こどもたちからも「素早く行動できた」「頭をしっかり守れた」などの感想がありました。

カテゴリ： 活動紹介, 学校関係者, 玉手箱, 避難訓練

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
Mail: info@furusato-mirai.com

NPO法人 ふるさと未来創造堂

19日 11月 2018

【防災玉手箱】長岡市立栖吉小学校

長岡市立栖吉小学校にて、避難訓練のサポートを行いました。

避難訓練に、自分事として真剣に取り組んでほしい、そして高学年は自分の身を守ることはもちろんのこと、下の学年の子の事も気にかけ、声をかけたり一緒に連れて避難できるようになってほしい。
そんな先生の願いから、事前学習と当日の訓練のサポートを行いました。
①平成30年10月30日（火）避難訓練事前学習
②平成30年11月1日（木）避難訓練

今回の避難訓練は地震と火事を想定したものです。
事前学習では、地震が起きた時の危険箇所を学習しました。

今回の避難訓練で高学年が下学年のことをサポートする意識づけをするために、縦割り班で学校内の危険箇所を確認する活動を行いました。
自分の身を守るために、地震ではどんなことが危険か、またどのようにして身を守れば良いかを学習することができました。

そして迎えた避難訓練当日。朝の掃除をする時間で、事前学習と同じように縦割りで様々な場所にこどもたちがいる時間です。
緊急地震速報がなった後、地震が起き、家庭科室から火災が発生した想定で、実際に家庭科室から煙を発生させました。

放送がやむと同時に、低学年の手を引き、火災現場から遠い方へ避難する高学年。
声掛けをしながら下の学年を連れていく姿がありました。

避難終了後、先生方からの講評の後、玉手箱講師からも講評させていただきました。
今回できなかったことを繰り返し避難訓練で行い、災害にそなえることが大切なことを伝えました。

終了後、掃除の続きのため、それぞれの場所へ児童が移動している時も、高学年のおにいさんおねえさんに嬉しそうに声掛けをして移動する姿があり、とても温かい気持ちになりました。

カテゴリ： 活動紹介, 学校関係者, 玉手箱, 地震, 火災, 避難訓練

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
Mail: info@furusato-mirai.com

Copyright(c) 2016 特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂. All Rights

Cookie ポリシー

NPO法人 ふるさと未来創造堂

19日 11月 2018

【新潟市立黒埼中学校】洪水からの身を守るために

平成30年10月31日（水）新潟市立黒埼中学校にて、
避難訓練後の防災教室を行いました。

避難訓練後の校長先生のお話の後、20分程度、『洪水から自分の身を守ろう』というテーマで講演を行いました。
これまでの災害の写真資料を使い、洪水災害による被害の様子を確認し、洪水災害からの身の守り方を学習しました。

その後、グループでハザードマップを確認。
・地域の中で浸水する可能性のある場所や避難場所
・一時避難所の中には浸水する可能性がある場所もある　等
に気付くことができました。

具体的な状況設定の中で「災害が起きそうな時にどのように行動するか」をグループで考えた後、平成30年7月豪雨の様子から一人では逃げられない災害弱者について伝え、「自分も家族も全員が助かるために、今日から準備できること」をグループで考え、発表を行いました。

カテゴリ： 活動紹介, 学校関係者, 洪水

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
info@furusato-mirai.com

NPO法人 ふるさと未来創造堂

21日 1月 2019

【防災玉手箱】長岡市立大島小学校総合学習

長岡市立大島小学校の総合学習では、中越地震について様々な学習をした後、「日頃からの備え」「災害時の工夫」「災害食」「募金活動」のグループに分かれ活動を行いました。
そのグループでの活動をサポートさせていただきました。

まずは「日頃からの備え」「災害時の工夫」について、
平成30年11月7日（水）10：40~12：15

全体講師・日ごろからの備え講師：中野雅嗣
災害時の工夫講師：玉手箱サポーター　小林俊晴氏、鳥羽和子氏

①避難所の困りごとを実際の様子からどんなことがあるか考え、自分たちにどんなことができるのかグループワークを行いました。

②小中学生にもできることがあることを知り、グループに分かれ体験活動を行いました。
「日頃からの備え」・・・実際に防災用品を見たり、防災グッズチェックリストを使い持ち出し袋の中身を考えたり、家具固定の道具を紹介しました。
「災害時の工夫」・・・段ボールパーテーション・トイレ・椅子やペットボトルランタン、キッチンペーパーマスク、を実際に作る体験や給水車からの水の運び方などを体験しました。

平成30年11月21日（水）14：00~15：30
「災害食作り」を行いました。
講師：中野明子　　サポート：玉手箱サポーター　坂谷辰己氏

前の学習で、それぞれ自分たちが考えたレシピで災害食作りをし、さばカレーや蒸しパンを作ったそうです。
もう一度蒸しパンにチャレンジしたいという要望があり、
今回のメニューは次のようになりました。

・ごはん　　・野菜スープ　　・じゃがりこサラダ
・蒸しパン

災害時でも栄養バランスが大切なことを伝えたり、新聞紙やラップを使い洗い物を減らす工夫をしたり、アイラップを使った調理のポイントを確認しながら実施しました。

新聞紙食器にラップをかけて食事する工夫に驚いた、野菜スープで栄養がとれることを知った、と言いながらみんなでおいしくいただきました。

カテゴリ： 活動紹介, 学校関係者, 玉手箱, 備え

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
Mail: info@furusato-mirai.com

Copyright(c) 2016 特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂. All Rights

Cookie ポリシー

NPO法人 ふるさと未来創造堂

11日 12月 2018

【新潟市立漆山小学校】雷・暴風・竜巻に関する学習

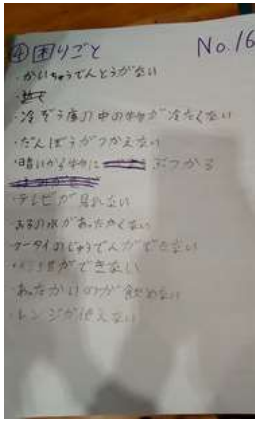
平成30年11月8日（木）9：30〜11：30
新潟市立漆山小学校にて、雷・暴風・竜巻などから身を守るためにどうしたら良いかクロスロードを用いて学習を行いました。

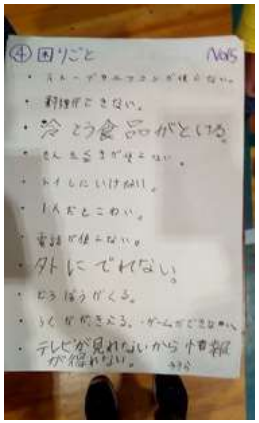
クイズ形式で「雷」「暴風や竜巻」の前兆現象を学んだ後、
縦割り班のグループでホワイトボードに雷や暴風の怖さ（どんな時に危険か）や身の守り方を書き出し、発表を行いました。

そして、縦割り班（地域別）で、具体的な自分たちの地域のなかで状況設定を与え、その時、自分の身を守るためにどのように行動すればよいかを、ＹＥＳ・ＮＯでそれぞれ答え、意見を共有し合いました。

それぞれの行動が一長一短なことを説明し、「雷や大風から身を守るために大切なこと」を地域班で話し合い、特に大切だと思うことベスト2を「地域班のおきて」にしました。

※クロスロードとは
http://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/torikumi/kth19005.html
カードを用いたゲーム形式による防災教育教材です。
ゲームの参加者は、カードに書かれた事例を自らの問題として考え、YESかNOかで自分の考えを示すとともに、参加者同士が意見交換を行いながら、ゲームを進めていくものです。





カテゴリ： 活動紹介, 学校関係者

NPO法人 ふるさと未来創造堂

11日 12月 2018

【防災玉手箱】長岡市立三島中学校

平成30年11月14日（水）5、6限
長岡市三島中学校にて、土砂災害に関する避難訓練が実施されました。
その後、長岡市防災玉手箱講師を活用し、土砂災害に関する講話を行いました。

まずは、連日の雨で避難準備情報が発令されたことを想定し、避難訓練を行いました。学校から三島体育センターまで全員で避難しました。

そのまま三島体育センターにて、
講師　樋口勲氏（㈱エコロジーサイエンス）より「土石流災害を考えよう」というテーマで講演いただきました。

土砂災害の説明やハザードマップの見方、三島中学校周辺の危険か所、避難経路、避難場所についてのお話がありました。
最後に「個々の避難するタイミングを考えよう、そして平日昼間みんなは何ができるか」
「中学生は地域を知り、人を知り、地域の力と成りえる」というメッセージをいただきました。

カテゴリ： 活動紹介, 学校関係者, 玉手箱, 土砂災害, 避難訓練

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582

NPO法人 ふるさと未来創造堂

11日 12月 2018

【防災玉手箱】長岡市立刈谷田中学校

平成30年11月15日（木）長岡市刈谷田中学校にて、
火災想定の避難訓練が行われました。

避難訓練後に、長岡市消防署による消火器体験（代表者）と長岡市防災玉手箱地域サポーターによる煙体験（全員）を行いました。

地域サポーターとして、坂谷辰己氏（元消防士）・大港要一氏（防災士）
が担当しました。

消火器体験コーナーと煙体験コーナーに分け、学年ごとに順番に体験しました。
体育館の一角（パーテーションで仕切ったスペース）で煙発生機を使い、地域サポータで体験場所を作りました。

坂谷氏より、煙の中の避難について説明し、順番に煙の中を通りました。
低い姿勢で、煙を吸わないようにハンカチ等で口をおおい、壁づたいに避難をします。
中に先生が入り、「見えるか？」と生徒に問いかけても真っ白で何も見えません。
実際に体験し、煙の中で避難することの大変さを実感できたようです。

煙体験を希望される学校はふるさと未来までご連絡ください。（目安の時間としては、生徒70人で20分程度になります。）

カテゴリ： 活動紹介, 学校関係者, 玉手箱, 火災, 避難訓練

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

NPO法人 ふるさと未来創造堂

21日 1月 2019

【防災玉手箱】長岡市立福戸小学校

平成３０年１２月１８日（火）１０：４０～１２：１５
長岡市立福戸小学校にて、防災学習を行いました。
講師：中野明子

中越大震災時の体験について伝え、改めて「自分と家族の命を守るために」どう行動したら良いか考える活動を行いました。

３時間目「通学路と家の中の危険箇所を確認し、身の守り方を考える」
地域の写真や家の中の写真を使い、グループで活動を行いました。

最後に、通学路や家での危険箇所の視点、家具固定についての資料を配り、冬休み中に通学路や家の中の確認をすることにしました。

４時間目「家族と日頃からどんな準備・相談をしておくと良いか」

中越大震災の時に祖母と連絡が取れなくなったこと、備えがなく避難所に行き苦労した時のことを話しました。
地震は一回でおさまらない。
家族みんなが安全に避難所まで避難し、安心して避難生活を送るために、どんな準備や相談が必要かグループで話し合いました。
たくさん意見が出てきましたが、いきなり全部やることは難しい。
まずは「私が家族と相談したいことを一つ」考え、発表を行いました。

「避難場所だけでなく、どうやって避難するか（経路）考えておく」
「やっぱり、備えがないと、命が助かっても死んでしまうかもしれないから食べ物やグッズをそろえる」
「家族と相談して、事前に避難場所、連絡手段などを決めておくことが大切」
「地震が起きた時の約束。避難場所も一か所だと行けないかもしれない。２か所決めておいたほうが良い」
など、家族のことを想像し、一生懸命考えていました。

最後に、身近なものを工夫した防災グッズ（新聞紙スリッパ）を作り、終了しました。

終わった後も、授業内で紹介した、我が家の防災グッズ（すぐに持ち出すものだけリュックに入れたもの）を実際に持って重さを確認しにきた子もいました。
２時間という長い時間でしたが、最後まで元気に、積極的に活動を行っていた福戸小学校のみなさん、ありがとうございました。

カテゴリ： 活動紹介, 学校関係者, 玉手箱, 備え, 地震, まち歩き

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
Mail: info@furusato-mirai.com

Copyright(c) 2016 特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂. All Rights

Cookie ポリシー

NPO法人 ふるさと未来創造堂

21日 1月 2019

【十日町市立中条小学校】火災避難訓練

平成３１年１月１０日（木）十日町市立中条小学校の避難訓練後の全校防災学習と煙体験を行いました。

火災がおこる原因は？火災で亡くなる人の原因は？
煙の何が危険なの？どうやって逃げたらいいの？

写真やイラスト、映像を見ながら、隣同士で考えたり、発表したりしながら２０分程度学習を行いました。

火災を予防することが大切だということを改めて考えることができたようです。
映像を見て、コンセント、カセットコンロ、ストーブなど普段の生活の中で使っているものにも注意することを知りました。

その後、休憩時間で希望者に対し、煙体験を実施しました。
「すごい、上と下と全然煙がちがう！」
「見えない、これはあぶなすぎる！逃げれない！」と煙の怖さを実感していました。

カテゴリ： 活動紹介, 学校関係者, 火災

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

ｌ-0034 新潟県長岡市福住3-4-39

NPO法人 ふるさと未来創造堂

21日 1月 2019

【防災玉手箱】長岡市立栖吉中学校

平成３１年１月１６日（水）長岡市立栖吉中学校にて
避難訓練後の事後指導を担当しました。

長岡市内の火災発生件数や、火災の原因、煙の危険性、煙から命を守るための逃げ方を伝え、煙の中の避難は非常に難しいことを確認しました。
防災玉手箱内に入っているキリンの巻物を使い、低い姿勢の必要性（煙は120㎝より上の方にたまりやすい）を伝えました。

そして、火災が起こらないように何ができるか問いかけ、体験活動にうつりました。
１年生から順番に煙体験を行い、待ち時間の中で火災の原因の映像を見ました。

実際に体験すると、周りは全く見えず、壁を手で確認しながら這うように進まないと動けないことがわかりました。
火災が起きないようにすること、初期消火について伝え、まとめました。

生徒のアンケート（一部抜粋）
「通報や避難だけではなく、未然に防ぐための対策や消火に協力することもできることを改めて考えました。」
「映像でカセットコンロやスプレー缶、電気ストーブでの火災を見て、使い方についてもう一度見直したいと思った。」
「お話や映像を見て、自分が火事の事を何も知らなかったことに気がつきました。なぜ逃げ遅れるのか、煙なんてよく見ればみえるから大丈夫だろうと思っていましたが、実際に煙の中を歩くと全く見えませんでした。」
「煙が有毒だということがわかった。ハンカチなどで煙を防ぐだけでも生死に大きく関わるということが分かった。」

カテゴリ： 活動紹介, 学校関係者, 玉手箱, 火災

NPO法人 ふるさと未来創造堂

12日 3月 2019

【防災玉手箱】長岡市立新組小学校

平成31年2月14日（木）10：40～11：25
長岡市立新組小学校にて、火災に関する全校防災学習を行いました。

火災についてのお話をし、その後煙体験を行いました。
今回は、広い図工室をブルーシートで区切り、実施しました。

体験することで、見えないこわさも実感し、さらに実際の煙は色々なものが燃えて真っ黒な煙で害もあることを知り、火災からの身の守り方について学びました。

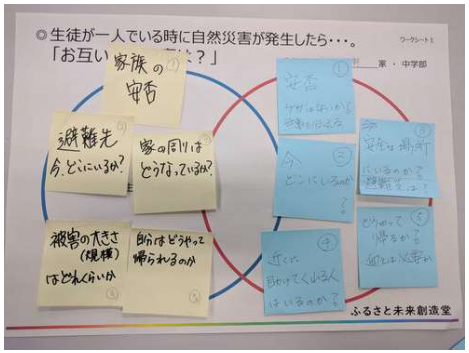
カテゴリ： 活動紹介, 学校関係者, 玉手箱, 火災

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
たい未来を創る
一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人 ふるさと未来創造堂

12日 3月 2019

【親子防災学習】新潟県立長岡聾学校



平成31年2月19日（火）13:45～15：20
新潟県立長岡聾学校にて、保護者のみなさんと一緒に防災学習を行いました。

まずは、生徒が体験活動をし、それを見ていた保護者も含め一緒に親子で考える活動を行いました。

平成30年1月の豪雪を振り返り、新潟で電車が立ち往生し、多くの人が10時間以上閉じ込められたことを伝え、体験活動です。

具体的な状況設定の中、電車から状況を知らせるアナウンスを講師がメガホンを使って実演。その中で、どのようにして、情報を手に入れたり、自分の状況を伝えるか、それぞれ考え、学校の緊急携帯電話にメールで伝えました。

実際に体験し、災害時には皆パニックになり、騒音で普段以上に音が聞き取りづらいことや口元が隠れてしまうと、読話ができないこと等を実感することができました。

その後、現在地や最低限の状況を伝える手段として、LINEの位置情報送信やステータスメッセージの使い方等を家族と体験。

次に家族での相談です。

自分と保護者の不安ごとを共有するお互いの知りたい・伝えたいが伝わる文書を考えました。お互いの心配事を付箋紙（子どもは黄色、親は水色）に書き出し、話し合いを行った後、「災害が起きた時、最初に伝える情報　我が家の○箇条」について話し合いました。

日頃から家族と準備をしたり、話し合ったりしておくことの大切さを伝えました。

最後に防災士の丸山さんより、防災グッズの展示をしていただき、その中でも普段から持ち歩くと良いもの（小さなポーチに入れた防災グッズ。筆記用具等）を紹介していただきました。

カテゴリ： 活動紹介, 家庭のみなさま, 学校関係者, 避難所, 備え, 地震

コメントをお書きください

コメント: *0*

#1

名前: *

コメント: *

プライバシーポリシー が適用されます *

送信

* 入力必須

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

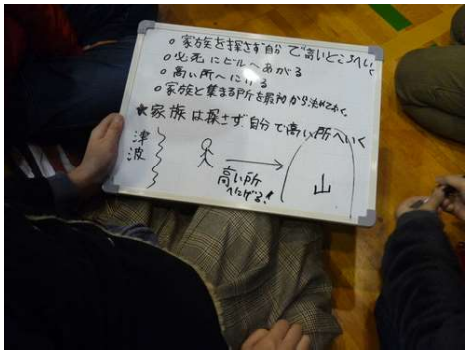
NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119

NPO法人 ふるさと未来創造堂

20日 5月 2019

【防災玉手箱】長岡市立阪之上小学校

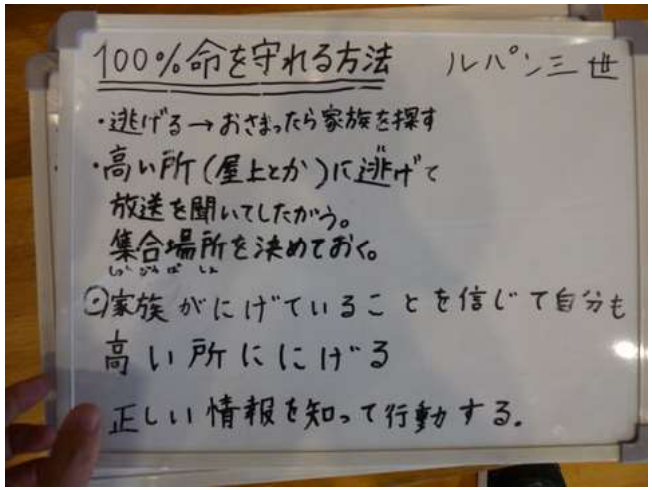


平成31年3月11日　13：45～14：30
長岡市立阪之上小学校にて、全校防災講座を行いました。

①津波のおそろしさを知ろう
東日本大震災と新潟地震の津波による被害写真を見せ、新潟地震で4mの津波が新潟市を襲ったことを伝えました。
津波を模した教材で実際の高さを確認したり、津波の速さや避難方法等を伝えたりしながら、予備知識を学びました。

②自分も家族も100%命を守れる方法を考える
全校の縦割り班（村）で、提示したシチュエーションを基にホワイトボードを使って話し合い活動を行いました。

③全体で発表した後、防災玉手箱地域サポーターの中澤直子氏より一言いただき、「事前に約束をしていなければ、地震が起きて津波が来る可能性があれば、親はこどもを絶対に探す。」という言葉から、再度こどもたちに問いかけると、「事前に相談しておけばいい！」という声があがりました。



自分の身は自分で守ることを一番に考え、そして家族全員が命を守るために、家族で話し合いをしてくることを約束しました。

カテゴリ： 活動紹介, 学校関係者, 玉手箱, 津波

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
Mail: info@furusato-mirai.com

NPO法人 ふるさと未来創造堂

20日 5月 2019

【防災玉手箱】長岡市立千手小学校

平成31年3月12日（火）長岡市立千手小学校にて、学年別の防災学習を行いました。

9：30～10：15　低学年「放射線の存在と性質を知る」

放射線の特徴と身の回りに存在していることを写真資料等で伝えた後、放射線と放射性物質の特徴を測定器を使いながら学びました。

放射線の特徴をクイズ形式で学習したり、教室内の様々な場所を放射線簡易測定器（はかるくん）で調べたり、楽しそうに学習していました。

10：35～11：20　6年生「原子力災害時の身の守り方を知る」

小学生のための放射線副読本を使って、クイズ形式で放射線や放射性物質の特徴、人から人には絶対に移らないこと、原子力災害からの身の守り方を知る学習を行いました。

文部科学省の放射線副読本P4～P11、21 から班で協力して、読み解き、クイズ形式で行いました。

長岡市ではもし柏崎刈羽原子力発電所で大きな事故が起きたら、ほんどの地域が「屋内退避」をすることとその理由を伝え、屋内退避に関するイラスト資料から屋内退避をする時に気を付けること、その理由（根拠）についてグループで話し合い、発表しました。

13：55～14：40　3年生「原子力災害と身を守る方法を知る」

クイズ形式で放射線や放射性物質の特徴、人から人には絶対に移らないこと、原子力災害からの身の守り方を知り、屋内退避について説明しました。

その後大きな災害が発生した時の状況設定を伝え、数日間自宅から出れなくなっても自分と家族が安心して生活するためには、どんな準備（家庭の備え）が必要かを考えました。

防災グッズに不要なものはないこと、家族構成や家庭の状況によっても必要なものが違うことを確認し、自宅に帰ったら家族と災害への備えについて話し合うことを約束しました。

4、5年生は、地震に関する学習を行い、防災玉手箱の地域サポーター吉原昌隆氏から中越地震時の体験談をお話いただきました。
今後も各学年に合った内容を先生と一緒に考え、サポートしていきたいと思います。

カテゴリ： 活動紹介, 学校関係者, 玉手箱, 原子力

自然災害から人の命が守られる社会を目指し、
わくわくする「防災教育」をきっかけに、
よりよい未来を創る
地域一体での共育社会の再建を目指します。

NPO法人ふるさと未来創造堂

〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
Tel: 0258-94-6119
Fax: 0258-94-4582
Mail: info@furusato-mirai.com

Copyright(c) 2016 特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂. All Rights

Cookie ポリシー